

YAESU

The radio

DATA MANAGEMENT UNIT

DMU-2000

オペレーションマニュアル



初めにお読みください

付属品の確認

ご使用になる前に付属品の確認をしてください。

◎ データマネジメントユニット DMU-2000 (本体)	1台
◎ CFカード	1枚
◎ SCP(SCOPE) Unit	1枚
◎ ビス (ASM3X6ND)	4個
◎ MiniDIN ケーブル (8-pin to 8-pin 1.5m)	1本
◎ AC 電源ケーブル	1本
◎ スペアーヒューズ T 3.15A	1本
◎ オペレーションマニュアル (本書)	1冊
◎ 保証書	1枚

保証書にお買い上げになりました販売店と日付が記入されていることを確認してください。

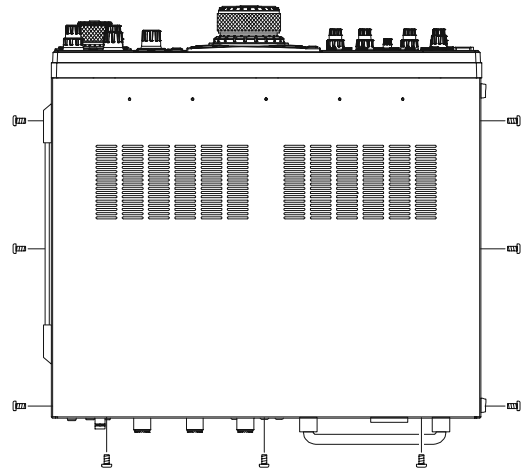
定 格

◎電源電圧	100VAC ~ 240VAC 50-60Hz
◎消費電力 (AC100V時)	約 50VA
◎外形寸法	100(W)× 135(H)× 350(D)mm (突起物を含まず)
◎重量	約 2.7kg

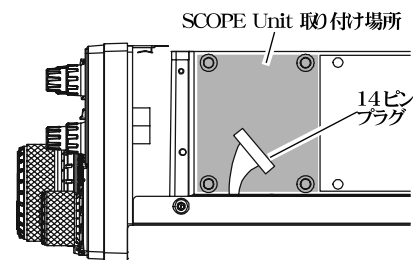
初めにお読みください

SCOPE Unitの取り付け (FT-2000 Series)

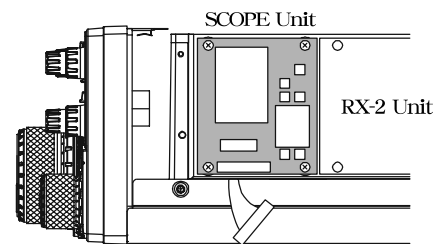
1. FT-2000 に電源が入っている場合は、【POWER】スイッチを約2秒以上押し、電源を切ります。
2. 【主電源】スイッチを (○) に倒し、主電源を切ります。
3. 電源コードを本体背面の電源端子 (～ AC IN) から外します。
4. 第1図を参考に、側面左右のビス合計6本と背面のビス3本を外し、上ケースを約1cm背面側にスライドしてから外します。
5. 第2図を参考に、右側面のダイキャストフレームにテープで貼られている14ピンのプラグのテープを取り外します。この位置が付属のSCP(SCOPE) Unitを取り付ける場所になります。
6. 第3図を参考に、付属のビス4本でSCOPE Unitを取り付けます。
7. 第4図を参考に、手順5で外した14ピンのプラグをSCOPE UnitのJ7002コネクタに接続します。
8. 第4図を参考に、RX-2 UnitのJ4508に接続されている同軸プラグ(◎)を抜き、SCOPE UnitのJ7003に、その同軸プラグ(◎)を差し込みます。次に、RX-2 Unitの(J4507)に接続されている同軸プラグ(⊕)を抜き、SCOPE UnitのJ7001にその同軸プラグ(⊕)を差し込みます。
9. 上ケースを元通りに取り付け(フロントパネル側に上ケースをスライドして取り付けます)、側面左右のビス合計6本と、背面のビス3本を締め付けます。
10. 第5図を参考に、DMU-2000とFT-2000を各ケーブルで接続します。
DMU-2000の通風孔をふさがないようにDMU-2000とFT-2000の間隔を2cm以上開けてください。
11. 以上で接続は終了です。



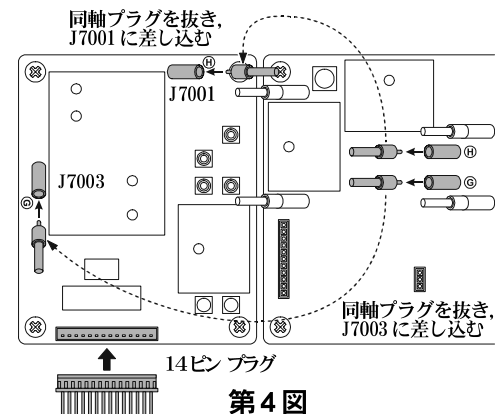
第1図



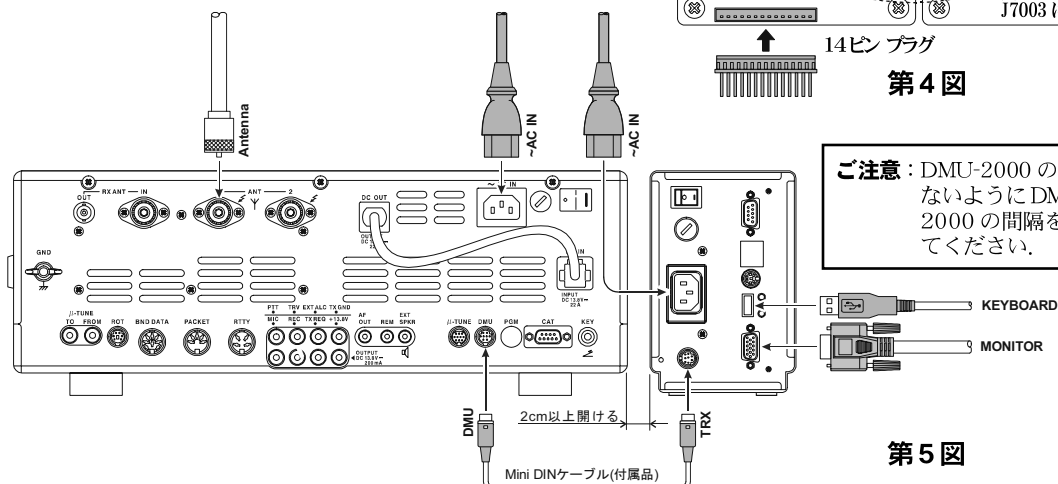
第2図



第3図



第4図

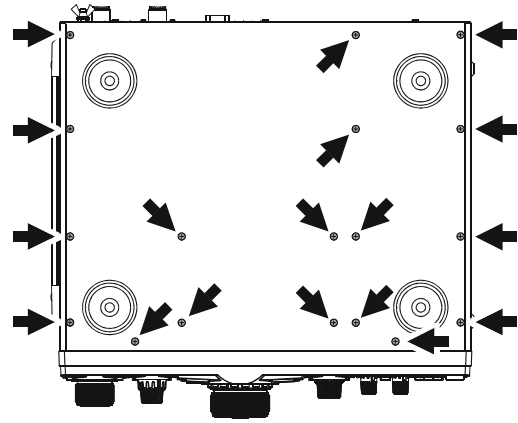


第5図

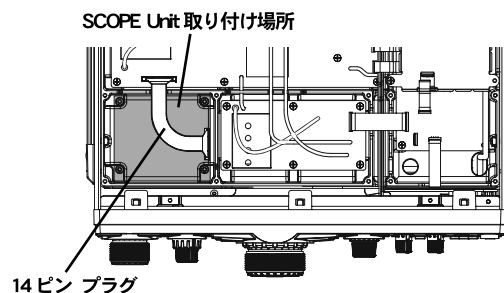
初めにお読みください

SCOPE Unit の取り付け (FT-950 Series)

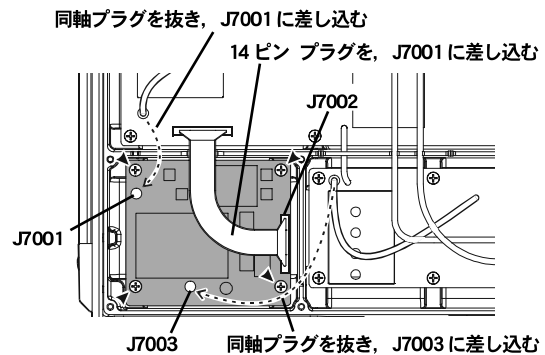
1. FT-950 に電源が入っている場合は、【ON/OFF】電源スイッチを約1秒以上押して電源を切ります。
2. 市販の直流電源の【ON/OFF】電源スイッチを切ります。
3. 電源コードを本体背面の電源端子 (DC IN) から外します。
4. 第1図を参考に、底面のビス合計18本(←)を外し、下ケースを外します。
5. 第2図を参考に、前面パネルを手前にして左側のダイキャストフレームにテープで貼られている14ピンのプラグのテープを取り外します。この位置が付属のSCP (SCOPE) Unitを取り付ける場所になります。
6. 第3図を参考に、DMU-2000に付属のビス4本(◀)でSCOPE Unitを取り付けます。
7. 第3図を参考に、手順5で外した14ピンのプラグをSCOPE UnitのJ7002コネクタに接続します。
8. 第3図を参考に、LOCAL UnitのJ4006に接続されている同軸プラグ(⊙)を抜き、SCOPE UnitのJ7003に、同軸プラグ(⊙)を差し込みます。次に、MAIN Unitの(J1029)に接続されている同軸プラグ(⊙)を抜き、SCOPE UnitのJ7001に同軸プラグ(⊙)を差し込みます。
9. 第4図を参考に、同軸プラグ(⊙)と同軸プラグ(⊙)をダイキャストの凹部分に差し込みます。
10. 下ケースを元通りに取り付け、合計18本のビスを締め付けます。
11. 第5図を参考に、DMU-2000とFT-950を各ケーブルで接続します。
DMU-2000の通風孔をふさがないようにDMU-2000とFT-950の間隔を2cm以上開けてください。
12. 以上で接続は終了です。



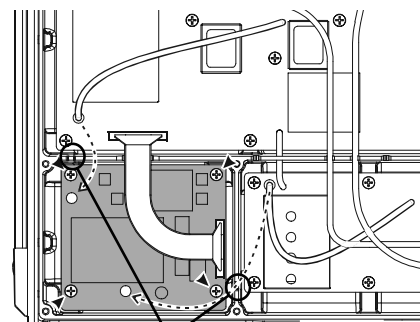
第1図



第2図

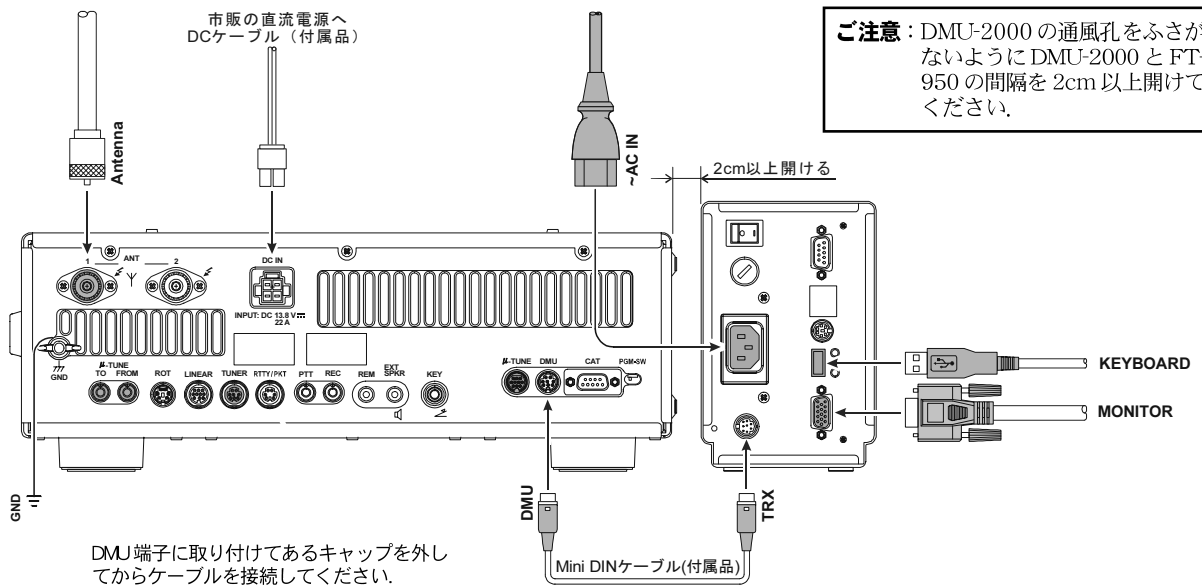


第3図



第4図

初めにお読みください



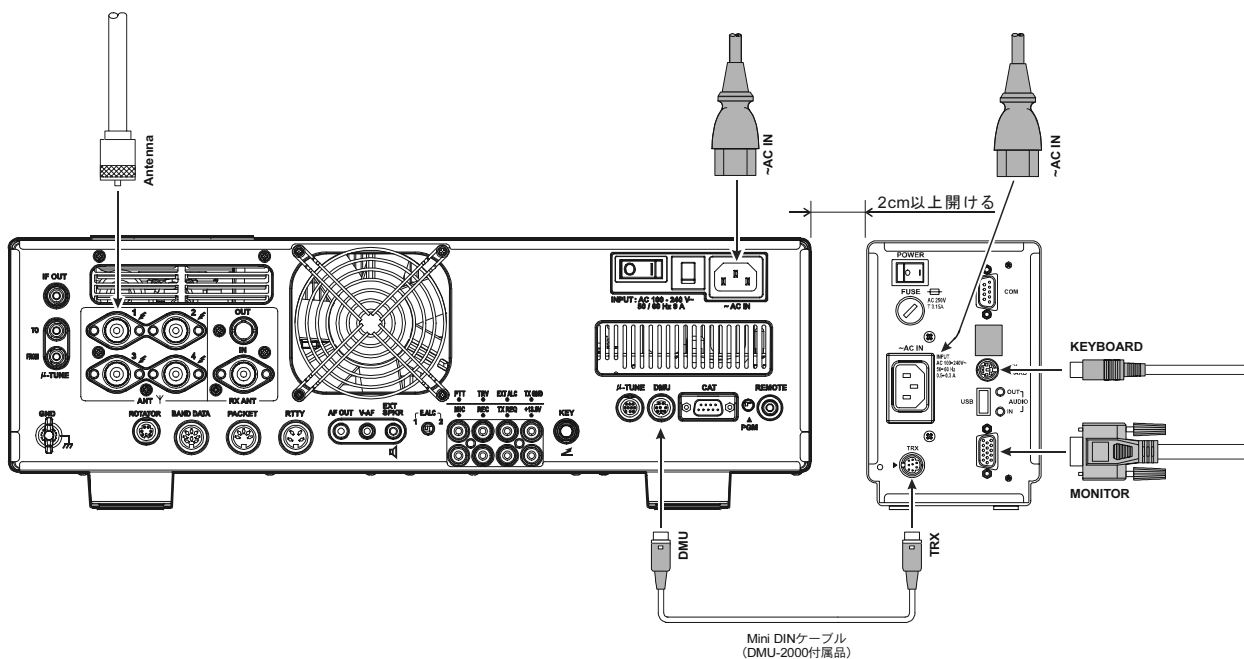
第5図

初めにお読みください

DMU-2000の接続 (FTDX5000 Series)

FTDX5000 SeriesはあらかじめSCOPE Unitは搭載されておりますので、DMU-2000に付属されているSCOPE Unitの取り付けは必要ありません。

1. FTDX5000 Seriesに電源が入っている場合は、【ON/OFF】電源スイッチを約1秒以上押し続けて電源を切ります。
2. 下図を参考に、DMU-2000とFTDX5000 Seriesを各ケーブルで接続します。
DMU-2000の通風孔をふさがないようにDMU-2000とFTDX5000 Seriesの間隔を2cm以上開けてください。



初めにお読みください

DMU-2000 + SM-5000の接続 (FTDx5000 Series)

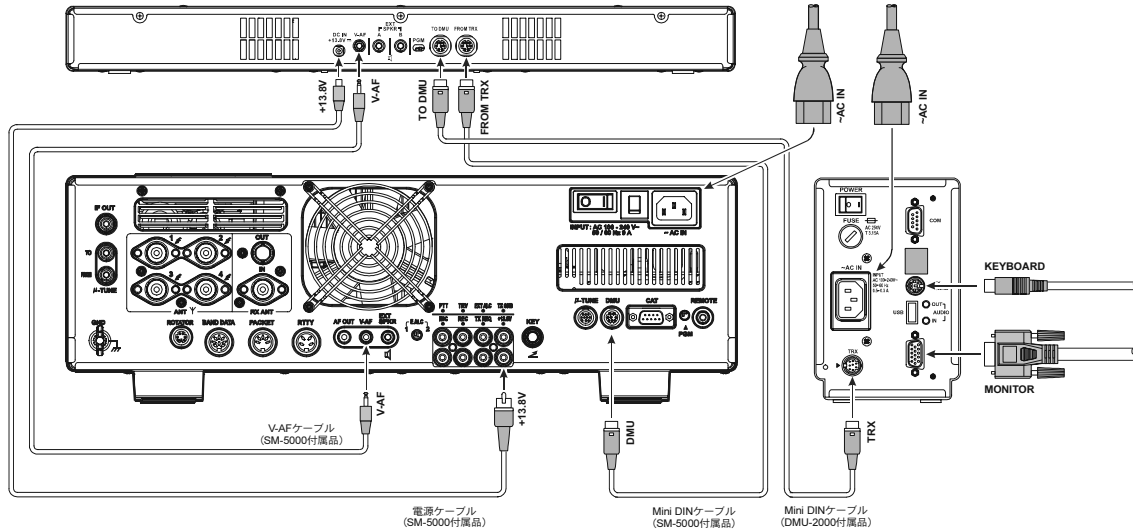
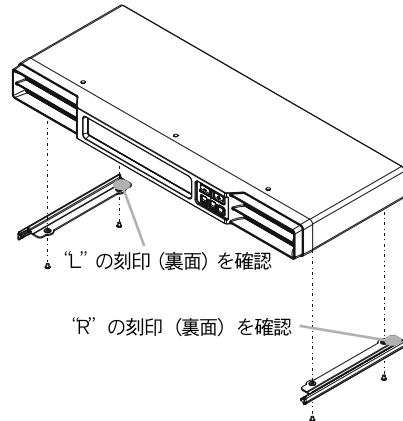
FTDx5000 SeriesはあらかじめSCOPE Unitは搭載されておりますので、DMU-2000 に付属されているSCOPE Unitの取り付けは必要ありません。

1. FTDx5000 Seriesに電源が入っている場合は、【ON/OFF】電源スイッチを約1秒以上押し続けて電源を切ります。
2. 下図を参考に、DMU-2000とSM-5000をFTDx5000 Seriesに各ケーブルで接続します。

DMU-2000の通風孔をふさがないようにDMU-2000とFTDx5000 Seriesの間隔を2cm以上開けてください。

サイドプレートの取り付け

1. SM-5000に付属されているサイドプレート(2枚)とビス(4個)を用意します。
2. SM-5000をFTDx5000の上部に載せる場合は、付属のビスでサイドプレートを取り付けてください。



初めにお読みください

お買い上げ後初めに電源を入れたときは、必ずローカル時間（運用する地点の登録）の設定を行ってください。この設定を行わないと、ワールドクロック、大圏地図などの機能が正常に動作しませんのでご注意ください。

【ご注意】 リスト以外の都市名を入力するには、キーボードが必要です。PS/2 または USB のキーボードを背面に接続してください。リストにある都市名を使用する場合はキーボードは必要ありません。自局の都市名はあとで変更することができます。キーボードがなくてもとりあえず自国の都市名の一つを選択することでローカル時間を設定することができます。

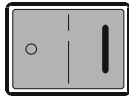
FT-2000 または FTdx5000 シリーズの背面にある主電源スイッチを入れないと前面の電源スイッチは動作しません (200W 仕様の場合は、付属の電源ユニットの前面に主電源スイッチがあります)。

① DMU-2000 を接続する

■ 無線機に DMU-2000 を接続します (接続方法は本書の 1 ~ 3 ページを参照してください)。背面の DISPLAY 端子に市販の外部モニターを接続してください。

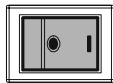
② 電源を入れる

■ FT-2000 または FTdx5000 シリーズの背面にある【主電源】スイッチを [I] 側に倒し電源を入れます。



200W 仕様の場合は、付属の電源ユニットの前面にある【主電源】スイッチを [I] 側に倒し電源を入れます。

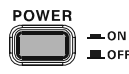
DMU-2000 の背面にある【主電源】スイッチを [I] 側に倒し電源を入れます。



■ 前面にある【POWER】スイッチを約 2 秒間押し続けて電源を入れます。



さらに、DMU-2000 の前面にある【POWER】スイッチを押して電源を入れます。



【ご注意】 主電源を切って再び入れるときは、3 秒以上間隔を開けてください。

電源を入れると、外部モニターにオープニング画面が表示され、内蔵のコンピュータによるセルフチェックが行われます。その後 μ 同調回路*がコンピュータのデータを取り込みセルフチェックをした後、最適点へ移動します。 μ 同調回路*がデータを取り込みセルフチェックをする際に、 μ 同調回路が移動可能範囲の端から端まで高速で移動するためモータ音が聞こえますが、故障ではありません。

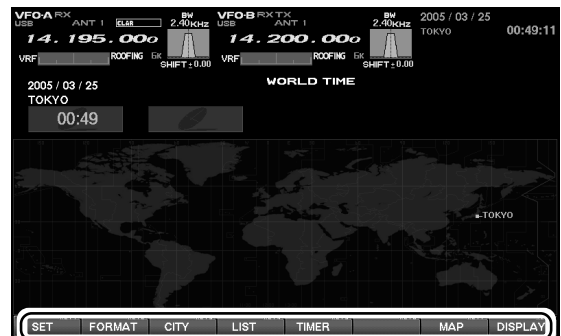
初めて電源を入れた時は、電源を入れてからセルフチェックが終了して動作が可能になるまでに約 50 秒の時間がかかります。2 度目からは前面にある【POWER】スイッチを押して電源を入れながら約 1 0 秒で動作が可能となります。

※：オプションの RF μ Tuning Kit を取り付けている場合に限りです。

③ ローカル時間の設定画面を表示する

■ **[DISPLAY]** キー (FT-950 および FTdx5000 はテンキーの **[ENT]**) を 2 秒以上押しすと、外部モニター画面の下部に表示されているファンクションタブに白い文字が表われ、FT-2000 本体の左下にある **[F1(CH+1)]** ~ **[F7(PBACK)]** / **[DISPLAY]** (FT-950 および FTdx5000 はテンキーの **[1.8(1)]** ~ **[24.5(8)]**) がファンクションキーとして動作します (DMU-2000 に接続したキーボードのファンクションキーを押しても動作しません)。

■ 外部モニターに世界地図を表示します。それ以外の画面が表示されている場合は、**[F1 (MAP)]** を押して、外部モニター画面に世界地図を表示させてください。



ファンクションタブ

■ **[DISPLAY]** を押し、次に **[F1 (SET)]** を押しして LOCAL TIME - 1 (ローカルタイム-1) の設定画面へ移動します。出荷時は東京がローカルタイムに設定されています。日本国内でご使用する場合は次の地域を変える操作は必要ありませんので、⑤へ進んでください。



初めにお読みください

④ 地域を変える場合（あらかじめ東京を設定してありますので、日本で使用する場合は、地域変更を設定せずに、使用することができます。）

(1) 世界地図から地域を変える場合

■ ZONE（地域）が黄色でハイライトされていますので[F7 (SELECT)]を短く押します。世界地図が表示されますので[F1(▼)]から[F4(▶)]までの矢印キーを使用して希望する地域へ移動し、[F7 (SELECT)]を押します。

■ その地域の国名リストが表示されますので[F1(▼)]から[F4(▶)]までの矢印キーを使用して希望する国名をハイライトし、[F7 (SELECT)]を押します。

■ リストされた都市名が表示されますのでその中から希望する都市名を選択し、[F7 (SELECT)]を押します。

アドバイス

国によっては一つの都市名しか表示されない場合があります。入力したい都市名は後で変更することができますので、ここではリストの中の都市名を選択してください。希望する都市名がない場合でもいずれかの都市名を選択してください。後で都市名を変えることができます。

(2) 経度 / 緯度データを使用して変える場合

現在の場所（位置）の経度 / 緯度が分かっている場合は、経度 / 緯度データから位置設定をすることができます。

■ LOCAL TIME - 1（ローカルタイム-1）の設定画面で（6ページ参照）、[F6 (LON/LAT)]を押すと、経度（LON:Longitude）の項目で、東経（E） / 西経（W）の設定項目が黄色でハイライトされます。



■ [F7 (SELECT)]を押すと、“E”が黄色でハイライトされ、[F1(▼)]と[F2(▲)]キーを使用して東経（E）または西経（W）の設定を行います（日本では変更せず、東経（E）のままにしてください）。

■ [F4(▶)]キーを押して経度の数値入力設定へ移動します。経度の各桁の数値入力は[F1(▼)]と[F2(▲)]キーを使用し、各桁の移動は[F3(◀)]と[F4(▶)]キーを使用します。

例

数値入力設定は10進法で入力しますが、“秒”を60進法で入力することができます。入力例として139°28' 15"の場合は13928.00と入力します。[F4(▶)]キーで“秒”入力項目に移り15を入力します。

E 13928.00 : 15

13928.00を入力

秒を15と入力
(60進法入力)

数値入力終了したら[F7 (SELECT)]を押します。数値は10進法に変換され経度入力は終了します。

E 13928.25 : 00

10進法に変換される

■ [F1(▼)]を押して緯度（LAT:Latitude）の設定項目に移動し、北緯（N） / 南緯（S）の設定項目が黄色でハイライトされます。

■ [F7 (SELECT)]を押すと、“N”が黄色でハイライトされ、[F1(▼)]と[F2(▲)]キーを使用して北緯（N）または南緯（S）の設定を行います（日本では変更せず、北緯（N）のままにしてください）。

■ [F4(▶)]キーを押して緯度の数値入力設定へ移動します。緯度の各桁の数値入力は[F1(▼)]と[F2(▲)]キーを使用し、各桁の移動は[F3(◀)]と[F4(▶)]キーを使用します。

例

数値入力設定は経度と同様です。10進法で入力しますが、“秒”を60進法で入力することができます。入力例として35°18' 30"の場合は3518.00と入力し、[F4(▶)]キーで“秒”入力項目に移り30を入力します。

N 3518.00 : 30

3518.00を入力

秒を30と入力
(60進法入力)

数値入力終了したら[F7 (SELECT)]を押します。数値は10進法に変換され経度入力は終了します。

N 3518.50 : 00

10進法に変換される

初めにお読みください

(3)GPS 受信データを使用して変える場合

市販のDsub9ピンコネクタタイプのGPSレシーバーを接続すると自局の位置(経度/緯度)をGPSにより計測して自動的に取り込みます。GPSレシーバーの接続は11ページをご覧ください。

- LOCAL TIME - 1 (ローカルタイム-1) の設定画面で(6ページ参照), [F6 (LON/LAT)]を押すと, 経度 (LON: Longitude) の項目の, 東経 (E) / 西経 (W) 設定項目が黄色でハイライトされ, 現在の位置の経度/緯度をGPSで計測した値で表示します。

正常に受信しているときは, 画面右上に白色の“GPS”が表示されます(受信できていないときは表示されません)。

- GPSデータを再読するには[F6 (GPS)]を押します。最新の経度/緯度データを読み込み表示することができます。



アドバイス

GPSレシーバーを接続中, 白色の“GPS”が点灯した場合は, “GPSとの接続状況やフォーマットのチェック”を行い, 正常に受信していることを表します。また, GPSが見通せない状態で受信できずに未測位だったり, 正しいフォーマットで受信できない場合は“GPS”は表示されません。

⑤ 都市名を変える場合

(PS/2 または USB のキーボードを背面に接続してください。都市名を変えない場合は⑥に進んでください。)

- [F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用してCITY (都市名) をハイライトします。[F7 (SELECT)]を押すとCITY (都市名) が入力可能となります。キーボードで希望する名前を入力してください(例: 下図は都市名を“YOKOHAMA”に変更した場合です)。



- [F7 (SELECT)]キーを長く押し確定してください。

⑥ OFFSET の設定

世界地図から地域を変えて設定した場合は, OFFSETは自動的に設定されますので⑦へ進んでください。

- [F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用してOFFSETをハイライトします。[F7 (SELECT)]を押すとOFFSETが入力可能となります。例としてUTC時間を基準にすると, 日本の時差は-9時間になりますので, [F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用して-09時を設定し, 次に[F4(▶)]の矢印キーで“分”の桁に移動して[F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーで00分に設定します(30分単位で設定可能)。

- [F7 (SELECT)]キーを長く押し確定してください。

初めにお読みください

⑦ 日付を修正する

GPSレシーバーを接続した場合は、自動的に日付情報は取り込まれますので⑧へ進んでください。

- [F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用してDATE(日付)をハイライトします。[F7(SELECT)]を押して入力モードにします。
- [F3(◀)]と[F4(▶)]の矢印キーを使用して桁を選択し、[F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用して数字を入力します。上記の動作を繰り返して日付を入力します。



- [F7(SELECT)]を長く押しして確定してください。

⑧ 時間を設定する

GPSレシーバーを接続した場合は、自動的に日付情報は取り込まれますので⑨へ進んでください。

- [F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用してTIME(時間)をハイライトします。[F7(SELECT)]を押して入力モードにします。
- [F3(◀)]と[F4(▶)]の矢印キーを使用して桁を選択し、[F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用して数字を入力します。時間は24時間表示で入力します。



- [F7(SELECT)]を押して確定してください。

⑨ 夏時間を設定する (日本でご使用になる場合は設定の必要がありません)

- 夏時間を使用している都市では、[F1(▼)]と[F2(▲)]の矢印キーを使用してDST(DAYLIGHT SAVING TIME: 夏時間)をハイライトします。
- [F3(◀)]と[F4(▶)]の矢印キーを使用してON/OFFを選択します。

⑩ 確定する

全ての入力設定が終了したら、[F7(SELECT)]を約2秒間押しして確定します。世界地図が表示され、設定した都市名と時刻が画面上に表示されます。

以上でローカル時間の設定が終了しました。

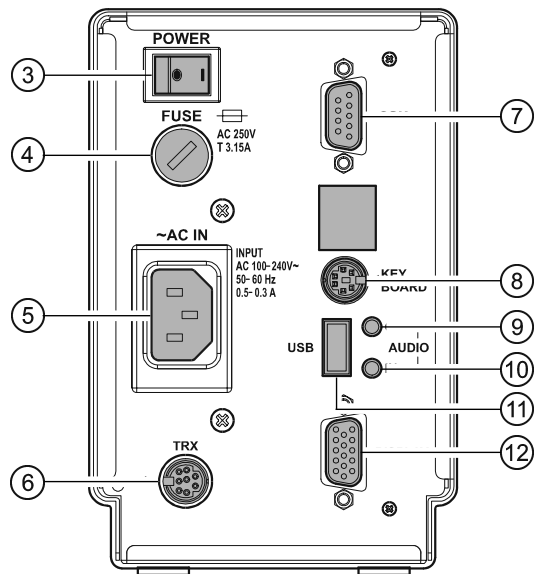
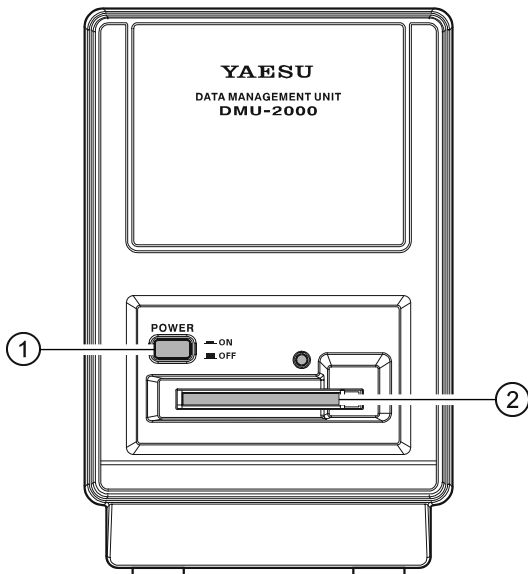
GPSレシーバーを常時接続しておくと、時刻の自動補正機能が動作します。この機能を使用しない場合はGPSレシーバーを取り外してください。GPSレシーバーを取り外すと、白色の“GPS”が黄色に変わります。黄色の“GPS”はGPSデータを使用して自局の位置を地図上に表示していることを表します。

【ご注意】 [F1(SET)]はローカル都市名、時間を設定するときだけに使います。間違えて押してしまった場合は、[F7(SELECT)]を約2秒間押しせば元の世界地図に戻ります。

GPSレシーバーを接続した時のアドバイス

LOCAL TIME-1の位置情報を世界地図から選択して設定した場合、あるいは経度/緯度を直接入力して設定した場合には、GPSレシーバーを接続しても以前に設定した情報を保存するため、測位情報を自動的に取り込めません。また、大圏地図も自動的に変更されません。GPSの測位情報でLOCAL TIME-1の位置情報で設定したい時には、「(3) GPS受信データを使用して変える場合」(P.8)を参照し、[F6(GPS)]を押してGPSデータを再読してください。

パネル面の説明



① POWER スイッチ

スイッチを押すと電源が入り、もう一度押すと電源が切れます。背面の【主電源】スイッチがOFFのときは、前面パネルの【POWER】スイッチは動作しません。

アドバイス 本機には【主電源】スイッチがあります。【主電源】スイッチを(1)側に倒すと、本機内部の電源ユニットの電源が入り、スタンバイ状態になります。スタンバイ状態にしないと【POWER】スイッチでDMU-2000の電源を入れることはできません。

② CF Card スロット

Compact Flash (CF) カードを装着するスロットです。

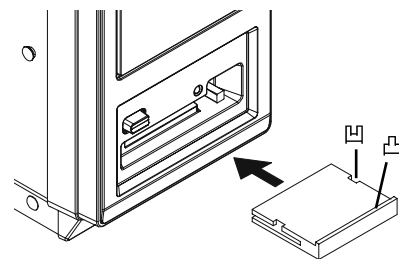
付属のCFカードを装着して、メモリーチャンネル・ログブック・メニューモードなどの情報を保存することができます。

CFカードへロード中またはセーブ中に赤色のLEDが点灯します。

CFカードをスロットから取り出す場合は、スロットの右側にある小さなボタンを押してください。

ご注意 MEM CARD 表示の右側に「CF CARD IS NOT READY」のエラーメッセージが表示された場合は、CFカードが正しく挿入されているか確認してください。

カードスロットにCFカードを装着するときは、CFカードの向きをよく確認してください。無理に差し込むとカードスロットやCFカードを破損させる原因になります。



③ 主電源スイッチ

本機の電源ユニットをON(I)/OFF(O)するスイッチです。

【主電源】スイッチがOFFのときは、前面パネルの電源スイッチは動作しません。

パネル面の説明

④ ヒューズホルダー

AC 電源用ヒューズホルダーです。
T3.15A のヒューズ使用します。
「100～240VAC」の電圧であれば自動検出で
使用することができます。ヒューズはどの電圧
でも 3.15A 共通です。

⑤ ~AC IN ソケット

電源接続用の 3P 型ソケットです。
付属の電源コードを使って直接 AC100V ～
AC240V のコンセントに接続します。

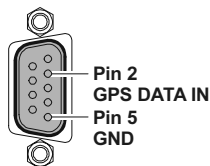
⑥ DMU ジャック

付属の MINI-DIN コントロールケーブルで、
FT-2000 と接続します。
接続方法は本書の 1 ページから 4 ページを参照
してください。

⑦ COM

市販の Dsub9 ピンコネクタータイプの GPS レ
シーバを接続する端子です。GPS で自局の位
置を入力する時に使用します。「ローテーター
コントロール画面」の大圏地図が、自動的に自
局の位置を中心とした大圏地図になります。
GPS レシーバは NMEA-0183 に準拠する
NMEA フォーマットに対応されたものをご使
用ください。

NMEA データ出力を COM
ジャックの「2ピン」(グラ
ウンド線は「5ピン」)に接続
します。サポートしている
NMEA データセンテンス
は、RMCのみです。



⑧ KEY BOARD

PS/2タイプのキーボードを接続する端子です。
ログブック機能を使う場合や、ワールドマップ
に都市名を入力する場合などに使用します。

⑨ AUDIO OUT

将来の拡張用オーディオ出力端子です。
本機内蔵コンピューターのサウンドカードの出
力端子に接続されています。
現在はそのままでは使うことはできません。

⑩ AUDIO IN

外部機器を接続して、オーディオ周波数帯の波
形を観測することができる端子です。
本機内蔵コンピューターのサウンドカードの入
力端子に接続されています。

⑪ USB

USB1.1タイプのキーボードを接続する端子で
す。
キーボード以外のUSB機器はサポートされて
おりませんので、接続しないでください。

⑫ DISPLAY

外部モニターを接続するコネクターです。市販
のモニター(800×600 SVGA)を接続すること
によって画面情報を表示させることができます。

外部モニターをご使用になる前に

データマネジメントの操作について

背面の DISPLAY 端子に市販のモニターを接続することにより、ワールドクロック、スペクトラムスコープ、オーディオスコープ/オシロスコープ、ログブック、温度表示/SWR表示、大圏地図/ローテーターコントロール、メモリーチャンネルリストの7種類の専用画面により運用に必要な補助機能としてさまざまな情報を表示することができます。この機能は、[DISPLAY]キーを押して各機能の呼び出しキー（ページセレクトキー）画面を表示させ、このページセレクトキーを押すことで、各機能画面へ移動することができます（13ページ参照）。

■ [DISPLAY]キー（FT-950 および FTdx5000 はテンキーの[ENT]）を2秒以上押します。

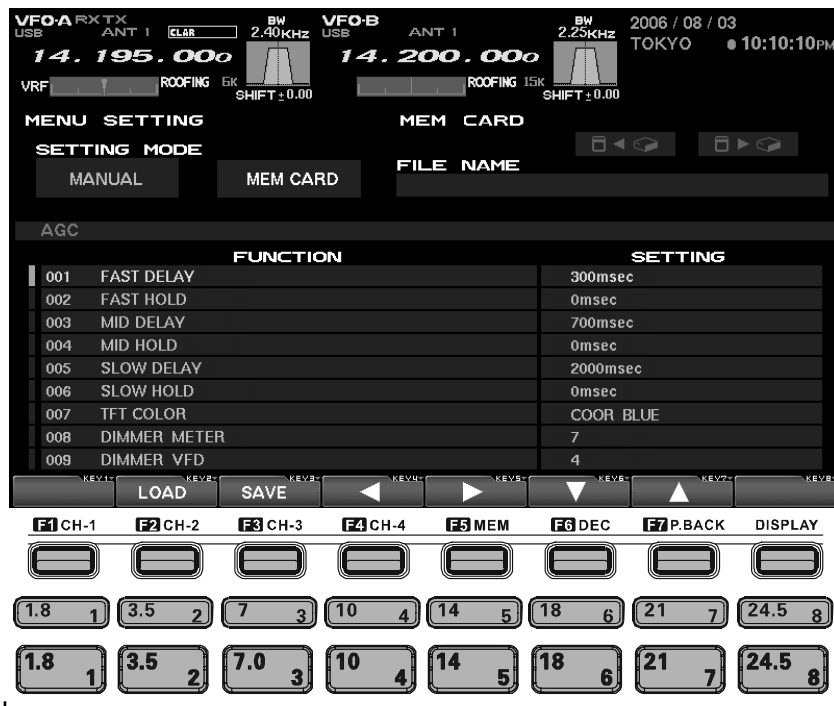
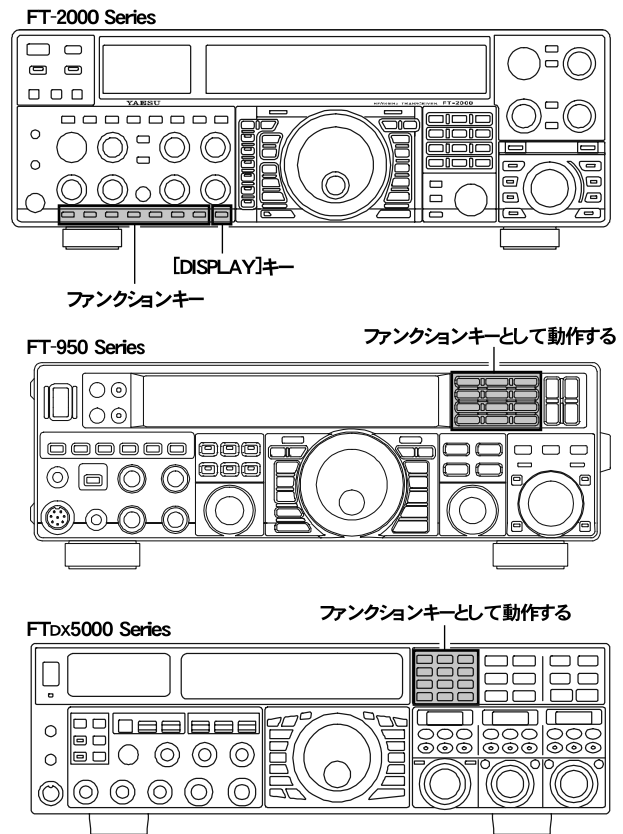
モニターに表示されているファンクションタブに白い文字が表示され、[F1(CH-1)]～[F7(P.BACK)]/[DISPLAY]（FT-950 および FTdx5000 はテンキーの[1.8(1)]～[24.5(8)]）がファンクションキーとして動作します。

もう一度[DISPLAY]キー（[ENT]キー）を2秒以上押すと、ファンクションキー動作は無効になり（ファンクションタブから白い文字は消えます）、ファンクションキーはデジタルボイス/コンテストメモリーキーヤーの選択キーとして動作します。

■ [DISPLAY]キーを短く押すと、“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。

■ [DISPLAY]キーを約2秒間押すと、ファンクションキーの機能“OFF”にすることができます。

それぞれの画面によって、ファンクションキーの機能が変わります。画面下にそのつど機能が表示されますので機能を確認して操作を行ってください。



ファンクションタブ

FT-2000 Series

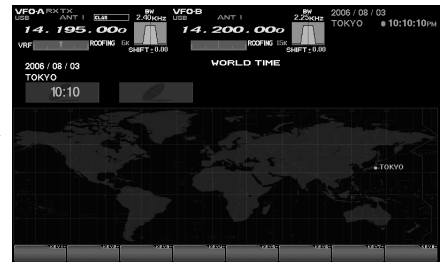
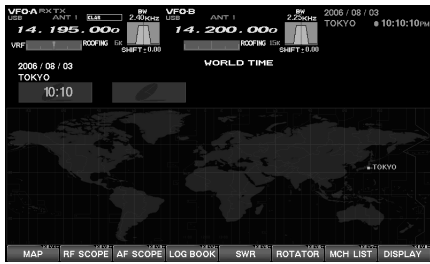
FT-950 Series

FTdx5000 Series

ファンクションキー

ご注意 DMU-2000 に接続したキーボードのファンクションキーを押しても動作しません

外部モニターをご使用になる前に



[DISPLAY] キー
を2秒以上押す

ファンクションタブの白い文字が消える

[F1(MAP)] キーを押す

[F2(RF SCOPE)] キーを押す

[F3(AF SCOPE)] キーを押す

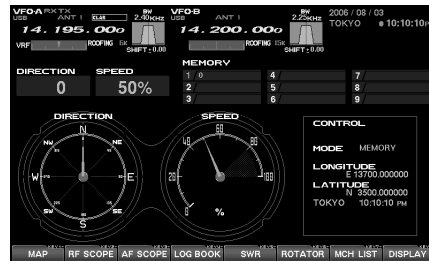
[F4(LOG BOOK)] キーを押す

[F5(SWR)] キーを押す

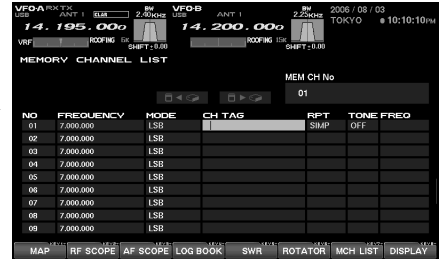
[F6(ROTATOR)] キーを押す

[F7(MCH LIST)] キーを押す

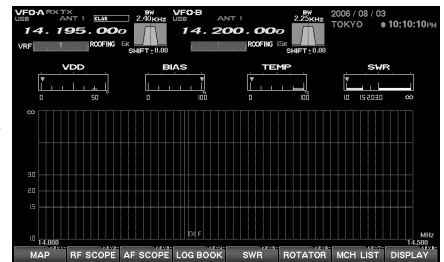
ページセレクトキー画面



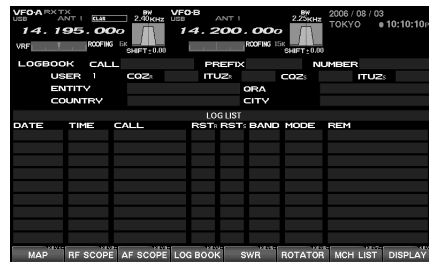
ローテーターコントロール(p.46)



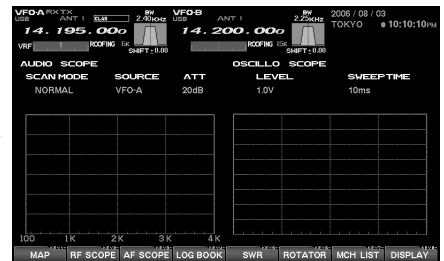
メモリーチャンネルリスト (p.51)



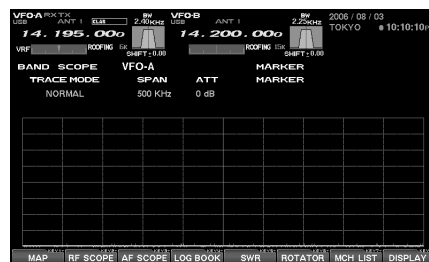
温度表示 / SWR 特性 (p.42)



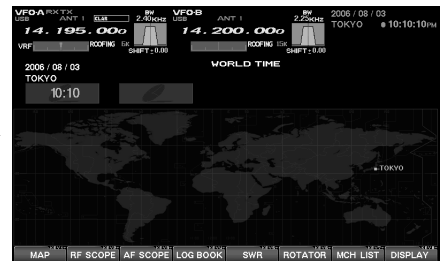
ログブック (p.36)



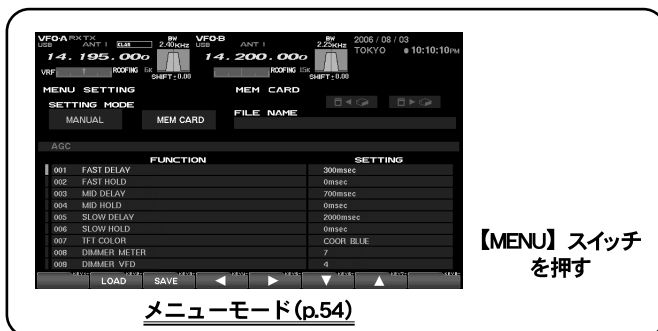
オーディオスコープ / オシロスコープ (p.33)



スペクトラムスコープ (p.26)



ワールドマップ【初期画面】 (p.20)



【MENU】スイッチ
を押す

メニューモード (p.54)

外部モニターをご使用になる前に

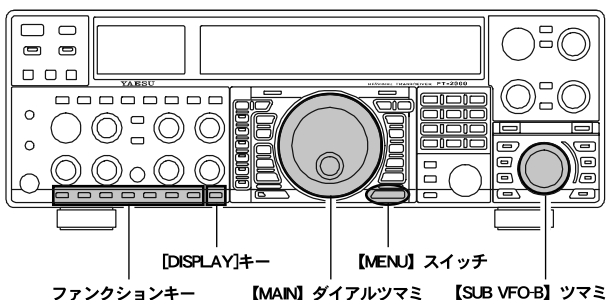
メニューモードの操作について

メニューモードを周波数ディスプレイ以外に外部モニターへ表示することができます。外部モニターにメニューモードを表示してメニューを変更したい場合は、次の操作を行ってください。

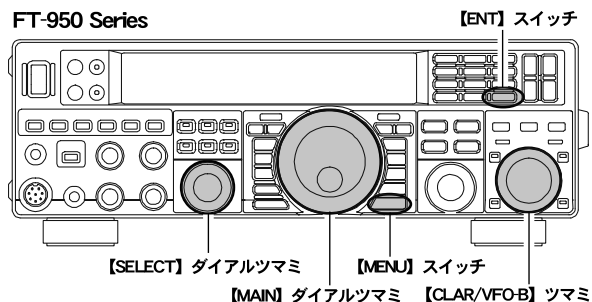
メニューモードに入るには、

1. **[DISPLAY]**キー (FT-950/FTdx5000は **[ENT]** キー) を2秒以上押すと、モニターに表示されているファンクションタブに白い文字が表示され、ファンクションキーが有効になります。
もう一度**[DISPLAY]**キー (FT-950/FTdx5000は **[ENT]** キー) を2秒以上押すと**ファンクション**キーは無効になり (ファンクションタブから白い文字は消えます)、ファンクションキーは他の選択キーとして動作します。
2. **[MENU]** (メニュー) スイッチを短く押してメニューモードを画面に表示します (54 ページ参照)。
3. **[MAIN]** ダイアルツマミ (FT-950は **[MAIN]** ダイアルツマミまたは **[SELECT]** ツマミ / FTdx5000は **VFO-A** **[SELECT]** ツマミ) をまわして変更したい項目へ移動します。
[F6(▼)]キー、**[F7(▲)]**キーで選択することもできます。
4. **[SUB VFO-B]** ツマミ (FT-950は **[CLAR/VFO-B]** ツマミ / FTdx5000は **VFO-B** **[SELECT]** ツマミ) で設定を変更します。
[F4(◀)]キー、**[F5(▶)]**キーで選択することもできます。
5. 変更が終了しましたら必ず **[MENU]** スイッチを約2秒間押して変更を確定します。

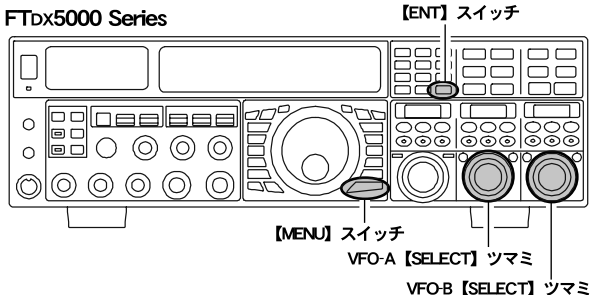
FT-2000 Series



FT-950 Series



FTdx5000 Series



ファンクションタブ

FT-2000 Series

FT-950 Series

FTdx5000 Series

ファンクションキー

アドバイス

メニューモードについてのさらに詳しい使い方については、このマニュアルの“メニューモードの使い方” (54 ページ) および本体のオペレーションマニュアルをお読みください。

外部モニターをご使用になる前に

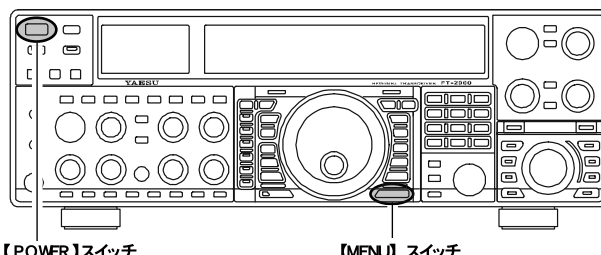
メニューモードの操作について(つづき)

メニューモードリセットについて

メニューモードの内容だけを工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. 前面パネルの **【POWER】** スイッチを押して、一度電源を“OFF”にします。
2. **【MENU】** スイッチを押しながら **【POWER】** スイッチを押して、電源を“ON”にします。

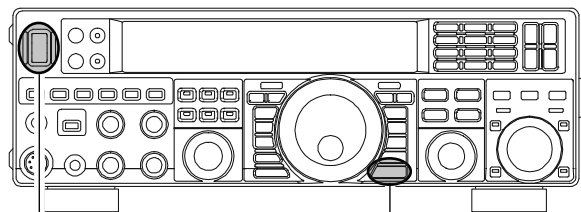
FT-2000 Series



【POWER】スイッチ

【MENU】スイッチ

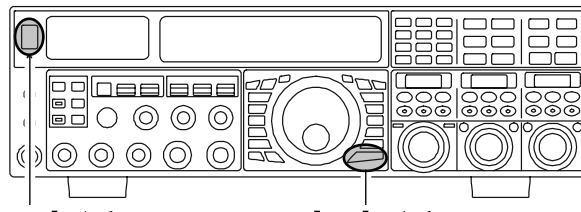
FT-950 Series



【POWER】スイッチ

【MENU】スイッチ

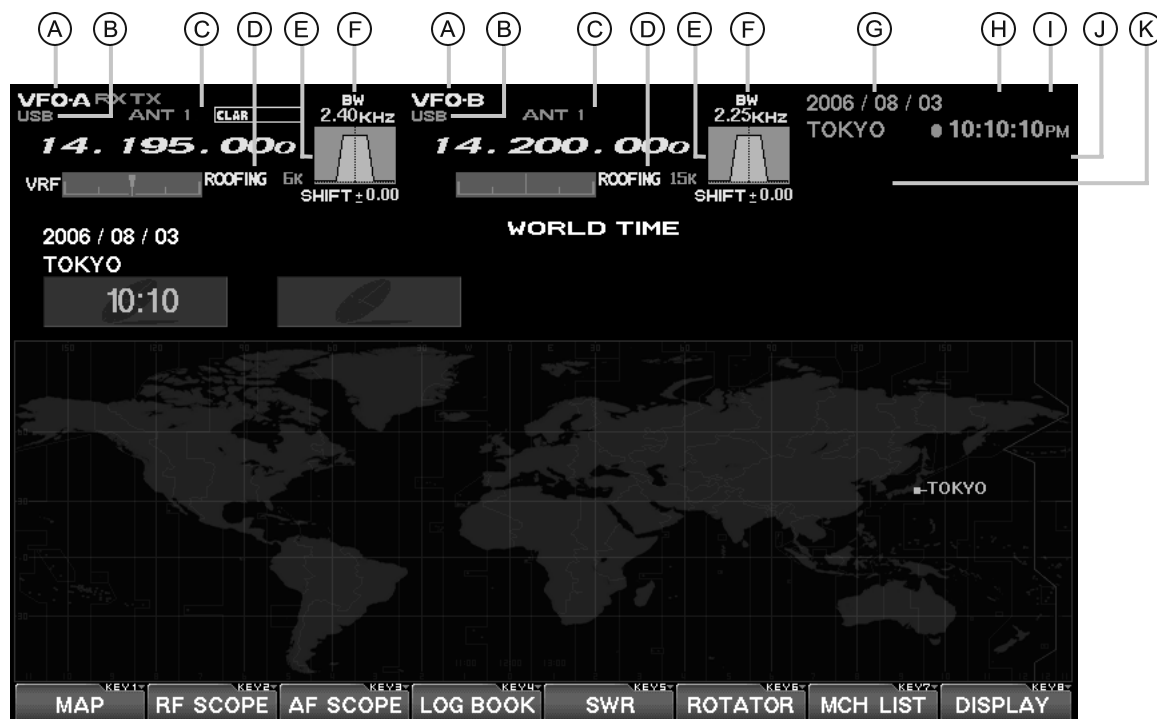
FTDx5000 Series



【POWER】スイッチ

【MENU】スイッチ

外部モニターをご使用になる前に



Ⓐ Main VFO-A, Sub VFO-B 表示

左側が Main VFO-A, 右側が Sub VFO-B を表示します。

Ⓑ MODE (電波型式) 表示

運用中の電波型式を表示します。

Ⓒ 運用周波数/クラリファイア/アンテナ表示

運用中の周波数, クラリファイアの ON/OFF, アンテナ切り換え情報を表示します。

Ⓓ フィルタ帯域表示

μ TUNE*, VRF, ルーフィングフィルタの帯域情報を表示します。

Ⓔ フィルタシフト量の表示

フィルタのシフト量を表示します。

Ⓕ WIDTH 帯域表示

WIDTH のフィルタ帯域幅を表示します。

Ⓖ 日付表示

現在の日付を表示します。

Ⓗ LOCAL TIME-1 表示

LOCAL TIME-1 で設定した時刻を表示します。

Ⓘ GPS 表示

市販のGPSレシーバーを接続し、正常に受信しているときは、ここへ白色の“GPS”が表示されます(受信できていないときは表示されません)。また、黄色の“GPS”が表示された場合は、GPSデータを使用して自局の位置を地図上に表示しているときに“GPS”が表示されます。

なお、GPSレシーバーの接続は、本書7ページのCOM端子の説明をご覧ください。

Ⓙ LOCAL TIME-2 表示

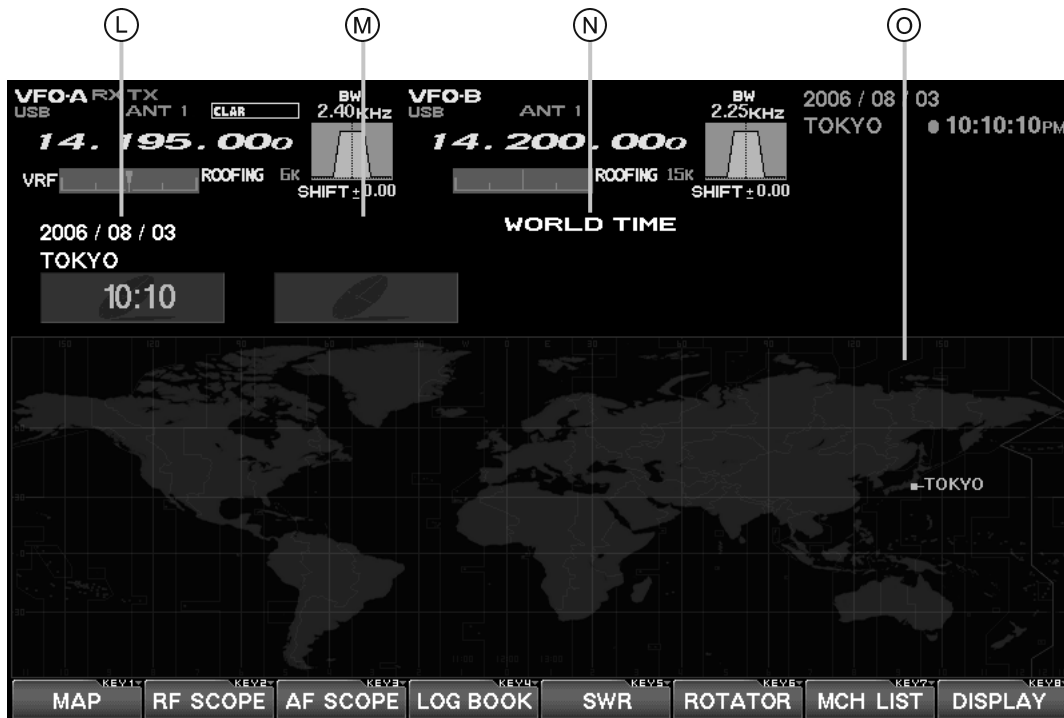
LOCAL TIME-2 で設定した時刻を表示します。

Ⓚ TIMER 表示

オフタイマーが設定されているときは“TIMER”, アラームが設定されているときは“ALARM”をここに表示します。

※: オプションのRF μ Tuning Kit を取り付けている場合。

外部モニターをご使用になる前に



① LOCAL TIME-1 表示

LOCAL TIME-1で設定した時刻を表示します。

② LOCAL TIME-2 表示

LOCAL TIME-2で設定した時刻を表示します。

③ WORLD TIME 表示

最大6都市までの現在の時刻を表示します。

④ 7種類の異なった表示をする部分です。

表示する内容は、ワールドクロック、スペクトラムスコープ、オーディオスコープ/オシロスコープ、ログブック、温度表示/SWR表示、大圏地図/ローテーターコントロール、メモリーチャンネルリストの7種類です。

FT-2000の[DISPLAY]スイッチ (FT-950およびFTDX5000はテンキーの[ENT])、または[F1(MAP)]~[F7(MCH LIST)]/[DISPLAY] (FT-950およびFTDX5000はテンキーの[1.8(1)]~[24.5(8)])を選択すると他の画面へ移動することができます。

目次

初めにお読みください	1
パネル面の説明	10
外部モニターをご使用になる前に	12
ワールドクロック機能の使い方	20
ワールドクロック機能とは.....	20
世界地図が表示されている画面のファンクションキーの説明.....	20
SET(LOCAL TIME-1)の設定	21
FORMAT(TIME FORMAT)の設定	21
CITY(表示都市の選択)の設定	22
ワールドクロックで選択した都市の各種設定変更.....	23
オフタイマーとアラームの設定.....	24
スペクトラムスコープ機能の使い方	26
スペクトラムスコープ機能とは.....	26
スペクトラムスコープが表示されている画面のファンクションキーの説明.....	26
CTR(センター)モードの使い方	28
マーカーの使い方.....	28
その他の機能の使い方.....	29
QMB マーカー	29
LBWS 機能の使い方	30
FIX(固定)モードの使い方	31
オーディオスコープ / オシロスコープ機能の使い方	33
オーディオスコープ / オシロスコープ機能とは	33
オーディオスコープ / オシロスコープ機能が表示されている画面のファンクションキーの説明	33
オーディオスコープの使い方	34
オシロスコープの使い方.....	35
オーディオスコープとオシロスコープの定格.....	35
ログブック機能の使い方	36
ログブック機能とは.....	36
ログブック機能が表示されている画面のファンクションキーの説明.....	36
ログブック階層図.....	37
ユーザー設定(CONFIG).....	38
CONFIG SETTING MODEの説明	38
ログブックの入力.....	39
ログブックの重複チェック(CHECK)	39
ログブックの編集(EDIT)	40
ログブックデータのセーブ(SAVE)	40
ログブックデータのロード(LOAD).....	41

目次

サマリーチェック (SUMMARY)	41
温度表示 /SWR 表示機能の使い方	42
温度表示/SWR 表示機能とは	42
温度表示/SWR 機能が表示されている画面のファンクションキーの説明	42
グラフィックメーターの説明.....	43
SWR 特性図による測定	43
マーカーによるSWRの測定	44
大圏地図 /ローテーターコントロール機能の使い方	46
ローテーターコントロール機能とは.....	46
大圏地図 /ローテーターコントロール機能が表示されている画面のファンクションキーの説明	46
MANUAL モードの使い方	48
PRESET モードの使い方	49
MEMORY モードの使い方	50
メモリーチャンネルリストの使い方	51
メモリーチャンネルリストとは.....	51
メモリーチャンネルリストが表示されている画面のファンクションキーの説明.....	51
メモリーチャンネルの消去/ 消去したメモリーの復活	52
メモリーデータのセーブ (SAVE).....	52
メモリーデータのロード (LOAD).....	53
メニューモードの使い方	54
メニューモードとは.....	54
メニューモードリセット	54
メニューが表示されている画面のファンクションキーの説明.....	55
メニューモードの設定変更.....	56
メニューモードのセーブ (SAVE).....	57
メニューモードのロード (LOAD)	58
CF カードのLOAD/SAVE 時に表示されるメッセージ一覧表	59

ワールドクロック機能の使い方

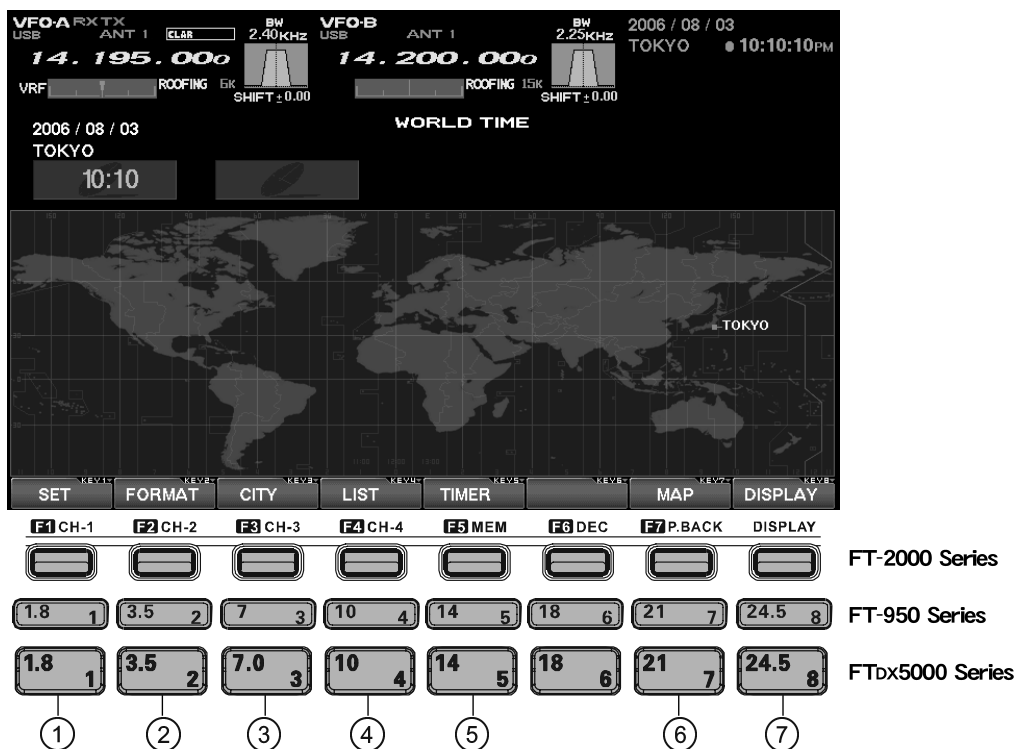
ワールドクロック機能とは

画面全体に世界地図を表示し各地域の時刻、昼夜の地域などを世界地図上で表示することができる大変便利な機能です。世界地図での日照地域の表示は、北半球と南半球でおこる夏と冬の日照地域の差も正しく表示されます。DXハンティングでは、相手が聴いているような時間帯を狙ってみるとか、QSOを聴きながら交信している局の時間帯を確認するなど、短波帯特有の長距離通信にとって重要なツールです。また、指定した地域の時間で動作するアラーム機能や、電源を自動的に切るオフタイマーを内蔵しています。

【ご注意】 お買い上げ後、初めて電源を入れたときは、かならずローカル時間（運用する地点の登録）の設定を行ったこと確認してください。この設定を行わないと、ワールドクロック、大圏地図などの機能が正常に動作しませんのでご注意ください。ローカル時間の設定は、「初めてお読みください」を参考にしてください。

世界地図の画面が表示されていない場合は、[DISPLAY]を短く押してページセレクトキー画面にしてから[F1(MAP)]を押して世界地図の画面を選択してください（13ページ参照）。

世界地図が表示されている画面のファンクションキーの説明



- ① **[F1(SET)]**
LOCAL TIME-1 の時間設定画面へ移動します。
- ② **[F2(FORMAT)]**
12時間/24時間表示の切り替え画面へ移動します。
- ③ **[F3(CITY)]**
表示する都市を選択する世界地図画面へ移動します。
- ④ **[F4(LIST)]**
選択された都市のリスト画面へ移動します。
- ⑤ **[F5(TIMER)]**
TIMER の設定画面へ移動します。
- ⑥ **[F7(MAP)]**
日照地域を示す画面と世界地図だけ表示する画面に切り替えます。
- ⑦ **[F8(DISPLAY)]**
短く押すと“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。
約2秒間押すとファンクションキーの機能を“OFF”にすることができます。

ワールドクロック機能の使い方

SET(LOCAL TIME-1)の設定

「初めにお読みください」を参考にしてください。

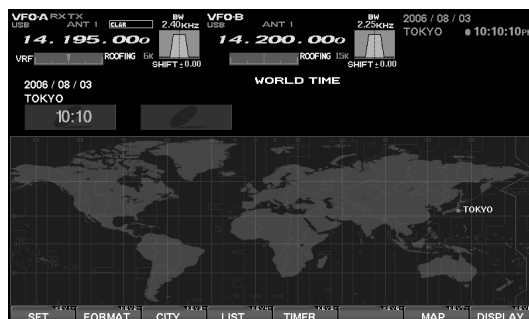
FORMAT(TIME FORMAT)の設定

TIME FORMAT(12時間表示/24時間表示)の設定をします。

1. 世界地図が表示されている画面から [F 2 (FORMAT)] を押して、TIME FORMAT の画面を選択します。
2. [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)] を押して、LOCAL TIME-1, LOCAL TIME-2, WORLD CITY LIST を 12 時間表示または 24 時間表示かを選択 (ハイライトにする) します。また SEC を ON に設定すると TFT 画面右上の LOCAL TIME の時刻表示を秒まで表示するようになります。

アドバイス [F6(SECADJ)] を押すと秒を 00 秒にセットします。

3. [F7(SELECT)] を約 2 秒押しして設定を終了します。



↑
TIME FORMAT
画面を選択



←
選択キー

↑
00秒にセット

ワールドクロック機能の使い方

CITY(表示都市の選択)の設定

ワールドクロックに表示させる都市名を選択することができます。

アドバイス

選択した後に表示する順番などは後で変更することができますので、ここでは都市名を選択してください。

あらかじめリストに入っている都市名を変更することができます。

リスト以外の都市名を入力するには、キーボードが必要です。PS2 または USB のキーボードを背面に接続してください。リストにある都市名を使用する場合にはキーボードは必要ありません。

1. 世界地図が表示されている画面から [F 3 (CITY)] を押して、“地域選択”画面にします。
2. [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)] を押して、表示させたい都市の大陸 (ZONE) を選択します。
3. 選択する地域がハイライトしていることを確認して [F7 (SELECT)] を短く押すとその地域の国リストが表示されます。
4. [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)] を押して、表示させたい都市の国名を選択します。
5. [F7 (SELECT)] を短く押すとその国に含まれる都市名のリストが表示されます。
6. [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)] を押して、表示させたい都市名を選択します。都市名が一つの場合はその都市名を選択します。
7. [F7 (SELECT)] を短く押すと、上記で選択した国名と都市名が表示されます。リスト以外の都市名を入力したい場合は、都市名がハイライトしていることを確認して [F 7 (SELECT)] を短く押すと都市名の入力モードになりますから、キーボードから都市名を入力します。
8. [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)] を押して、DAYLIGHT SAVING TIME(夏時間の選択)、DISPLAY MAP(ワールドクロック画面の地図上に都市名表示 / 非表示)、HIGHLIGHT(都市名のハイライト表示 (黄色表示) / 通常表示 (白色表示) の設定をします。
9. [F7 (SELECT)] を約 2 秒押しして設定を終了します。



地域選択画面



国名選択画面



選択した国名、都市名の表示

ワールドクロック機能の使い方

ワールドクロックで選択した都市の各種設定変更

ワールドクロックで選択した都市の時刻表示の順番、表示色などを変更することができます。

1. 世界地図が表示されている画面から **[F4(LIST)]** を押して、“都市名リスト”画面にします。
2. 画面中段の各都市の時刻表示の順番を入れ替える場合は、**[F1(▼)]**、**[F2(▲)]** で入れ替える都市にカーソルを移動し、**[F5(UP)]** を押すとハイライトしている都市名が上に移動し、**[F6(DOWN)]** を押すと、下に移動します。さらに移動させたい場合はくり返します。
3. 都市の各種設定を変更したい場合は、**[F1(▼)]**、**[F2(▲)]** で都市名を選択（ハイライト）したあと **[F7(SELECT)]** を短く押すと、その都市の各種設定画面になり、DAYLIGHT SAVING TIME(夏時間の選択)、DISPLAY MAP(ワールドクロック画面の地図上に都市名表示/非表示)、HIGHLIGHT(都市名のハイライト表示/非表示)を変更することができます。
4. ワールドクロックから都市を消去する場合は、**[F1(▼)]**、**[F2(▲)]** で消去したい都市にカーソルを移動し、**[F4(DEL)]** を押します。
5. **[F7(SELECT)]** を約2秒押しして設定を終了します。



↑ 都市名リストを選択



都市の選択

↑ 消去キー

アドバイス

DISPLAY MAP 設定で、都市名表示を選択すると世界地図上に都市名が表示されます。非表示にすると、世界地図上に都市名は表示されずに TFT の中段にその都市名と現在時刻だけが表示されます。

HIGHLIGHT(都市名のハイライト表示/非表示)の設定で、ハイライトを選択すると世界地図上の都市名が黄色で表示されます。ハイライト非表示を選択すると都市名が白色で表示されます。

ワールドクロック機能の使い方

オフタイマーとアラームの設定

オフタイマーとアラームの設定をすることができます。

オフタイマーは120分/90分/60分/30分/15分/OFFの中から設定をすることができます。

アラーム設定はLOCAL TIME-1, またはLOCAL TIME-2の選択, アラーム時間設定, ON/OFF, アラームを一度だけ鳴らすか, 毎日鳴らすかの設定を行うことができます。

1. 世界地図が表示されている画面から [F 5 (TIMER)] を押して, オフタイマーとアラームの設定画面に移動します。
2. [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)] を押して, 下記の選択したい項目にカーソルを移動してハイライト表示にします。

◎ オフタイマーの設定 (OFF TIMER SETTING)

120分/90分/60分/30分/15分/OFF

アドバイス オフタイマーを設定する場合は ALARM SETTING の ON/OFF 設定を “OFF” にしてください。

◎ アラームの設定 (ALARM SETTING)

アドバイス アラームを設定する場合は O F F TIMER SETTING を “OFF” にしてください。

- ・ TIME ZONE
(LOCAL TIME-1/LOCAL TIME-2)
- ・ ALARM TIME 設定
- ・ ALARM ON/OFF
- ・ CYCLE(ONCE/DAILY)

3. [F7(SELECT)] を約 2 秒押しして設定終了します。

アドバイス オフタイマーは, 時間がくるとフロントパネルのパワースイッチを切った状態になります。主電源は切れません。

アラームは, 約 1 分間鳴り続けます。アラームを止めたい時は, フロントパネルのキーのどれかを押すことによってリセットされ止まります。



↑ 設定画面を選択



オフタイマーとアラームの設定画面

スペクトラムスコープ機能の使い方

スペクトラムスコープ機能とは

Main VFO-A のバンド内の状況をモニターするために便利なスペクトラムスコープを表示します。画面全体がスペクトラムスコープ機能になりますので、強い信号から微弱な信号まで信号強度を解りやすく表示することができます。高速にモニターすることができる LBWS 機能、VFO の周波数が常に画面の中心にあり自局の周りをモニターするために便利な CTR（センター）モードとバンド内をモニターするために便利な、画面の左端の周波数が固定された FIX（固定）モード切り替えなど実際の運用を考慮した多機能スコープです。

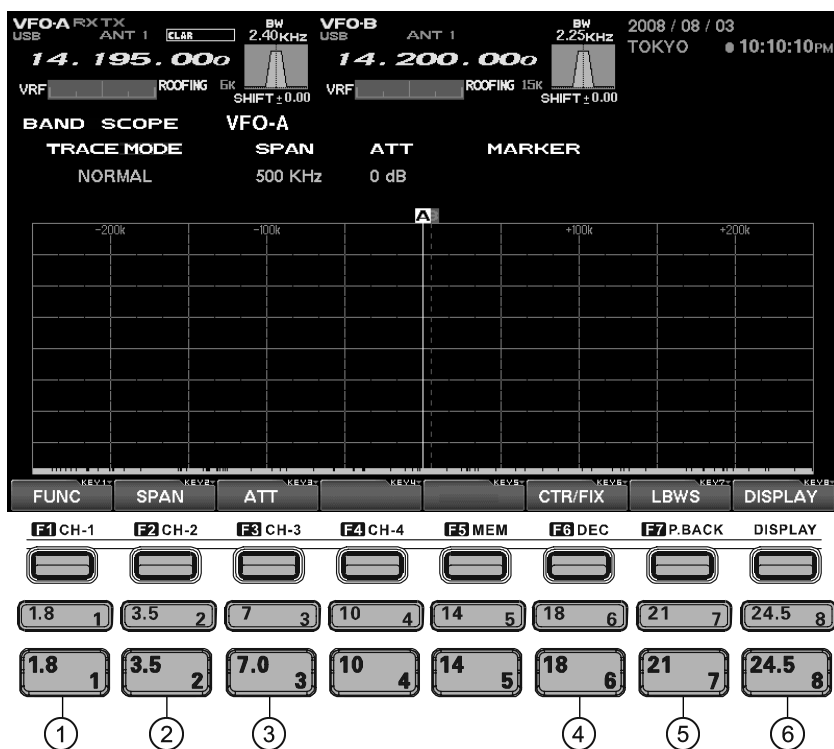
スペクトラムスコープの画面が表示されていない場合は、[DISPLAY]を短く押してページセレクトキー画面にしてから[F2(RF SCOPE)]を押してスペクトラムスコープの画面を選択してください（13 ページ参照）。

アドバイス Main VFO-A の周波数位置表示は橙色の“A”に実線で表示されます。また、Sub VFO-B の周波数位置表示は黄色の“B”に破線で表示されます。

ワポイント スペクトラムスコープの縦軸は、1 目盛り約 10dB になります。送信時は自局の送信波形を表示します。

スペクトラムスコープが表示されている画面のファンクションキーの説明

画面によってファンクションタブの機能が変わります。画面下にそのつど機能が表示されますので機能を確認して操作を行ってください。



① [F1(FUNC)]

MKR（マーカー）の機能などを設定するスペクトラムスコープのファンクション画面に移動します。

アドバイス この画面ではファンクションキーの機能が変わりますのでご注意ください。ファンクション画面から元の画面に戻る時は、[F7 (EXIT)] キーを押します。

上記画面は、CTR（センター）モード時の画面例です。

② [F2(SPAN)] 帯域幅

SPAN の値を変更します。

短く押すことで画面の端から端までの周波数を変えることができます。2500kHz までいくと始めの 25kHz に戻ります。スコープ上部の SPAN 表示の下に現在のスパンが表示されます。

25kHz → 50kHz → 100kHz →

250kHz → 500kHz → 1000kHz →

2500kHz → 25kHz に戻る

スペクトラムスコープ機能の使い方

③ [F3(ATT)]

ATT (アッテネータ) の値を変更します。短く押すことで下記のように切り換えることができます。コンデションやアンテナの状態でノイズの量が変わりますので見やすい値を選んでください。

0dB → 10dB → 20dB → 0dB に戻る

④ [F6(CTR/FIX)]

CTR (センター) モードと FIX (固定) モードを切り替えます。

CTR (センター) モードでは自局の周波数が常に画面の中心になります。FIX (固定) モードではメニューモードで設定した周波数が画面の左端の周波数として固定されます。

アドバイス

CTR (センター) モードと FIX (固定) モードのどちらでも自局の周波数の位置は画面上に橙色の **A** で表示されますので大変便利です。

FIX (固定) モードの左端の周波数設定方法は、他の設定の変更と同様に **[MENU]** スイッチを短く押して画面をメニューモードします。

MAIN ダイアルツマミ (FT-950 は **[MAIN]** ダイアルツマミまたは **[SELECT]** ツマミ / FTdx5000 は **VFO-A [SELECT]** ツマミ) を回して変更したい項目 (FT-2000 Series の場合はメニューモードの「No.105 SCOPE FIX 1.8MHz」～「No.115 SCOPE FIX 50MHz」(FT-950 Series は「073 SCP 1.8 FIX」～「083 SCP 50.0 FIX」, FTdx5000 Series は「131 SCP 1.8 FIX」～「141 SCP 50.0 FIX」) の中で設定したい項目) へ移動して、**[SUB VFO-B]** ツマミ (FT-950 は **[CLAR/VFO-B]** ツマミ / FTdx5000 は **VFO-B [SELECT]** ツマミ) で内容を変更します。変更が終了したらかならず **[MENU]** スイッチを約2秒間押して変更を確定します。この際に変更をしたくない場合は、**[MENU]** スイッチを短く押せば、元の状態に戻ります。

メニューモードは設定が多く見づらいので、リストの左上に設定のグループを表示しています。まず関連のあるグループをメインダイアルツマミで選んでから、それぞれの項目を探すと便利です。

⑤ [F7(LBWS)]

画面全体のスパン (帯域幅) を変えずに画面の一部だけを高速でスイープする、LBWS の帯域幅を変更します。

狭くするほどスイープのスピードが速くなり信号を正確にチェックすることができます。帯域幅は 50%, 30%, 10% に設定することができます。スイープの速度は、50% で約2倍、30% で約3倍、10% で約10倍となります。

NORMAL → LBWS-1 (50%) → LBWS-2 (30%) → LBWS-3 (10%) → NORMAL に戻る

アドバイス

LBWS モードに入りますと、画面下のファンクションキーの機能が変わり、**[F5 (◀)], [F6 (▶)]** でスイープしている位置を移動することができます。元に戻るには **[F7 (LBWS)]** キーを何度か押します。

LBWS は FIX (固定) モードでは使用できません。CTR (センター) モードでご使用ください。

⑥ [F8(DISPLAY)]

短く押すと“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。

約2秒間押すとファンクションキーの機能を“OFF”にすることができます。

スペクトラムスコープ機能の使い方

CTR(センター)モードの使い方

画面左上の Main VFO-A の周波数表示が、常に橙色の **A** に実線で表示されている部分が中心周波数になります。マーカー機能を利用して、強い信号の位置にマーカーを移動させてワンタッチでマーカーの位置の周波数を受信することができます。さらに画面全体のスパン(帯域幅)を変えずに画面の一部だけを高速でスイープすることができる LBWS(Limited Band Width Sweep)機能を使用することができます。

1. **[F6(CTR/FIX)]**を押して、CTR(センター)モードに切り替えます。

押すごとにCTR(センター)モードとFIX(固定)モードに切り替わります。CTR(センター)モードでは画面左上の Main VFO-A 周波数が中心周波数(橙色の **A** の部分)として表示されます。

2. **[F2(SPAN)]**帯域幅を押して、見やすいSPANに変更します。

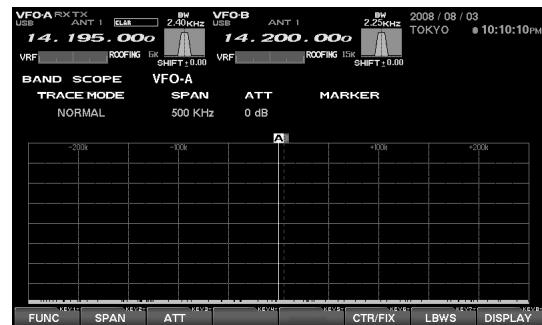
押すごとに下記のように切り換わります。

25kHz → 50kHz → 100kHz → 250kHz →
500kHz → 1000kHz → 2500kHz →
25kHz に戻る

3. **[F3(ATT)]**アッテネータを押して、アンテナの状態やコンディションに応じてATT値を変更します。

押すごとに下記のように切り換わります。

0dB → 10dB → 20dB → 0dB に戻る



↑ スパン切り替え ↑ CTR/FIX モード切り替え

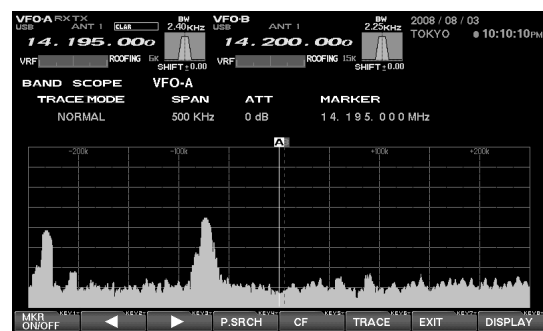
マーカーの使い方

1. **[F1(FUNC)]**を押してマーカー設定画面にします。**[F1]**の表示が、(FUNC)から(MKR ON/OFF)に変わりますから、もう一度**[F1(MKR ON/OFF)]**を押すと、画面上の中央にマーカーの線が表示されます。

2. **[F2(◀)], [F3(▶)]**によりマーカーの位置を変更することができます。強い信号がありそうな場合などにその位置にマーカーを移動させることができます。また**[F5(CF)]**センター周波数を押すとワンタッチでマーカーの位置をセンターに戻すことができ、その周波数を受信します。

3. マーカーを消すには、**[F1(MKR ON/OFF)]**キーを押します。

4. スペクトラムスコープの画面に戻るには**[F7(EXIT)]**を押します。マーカーを表示したままもとの画面に戻ると、マーカーは表示されたままになります。



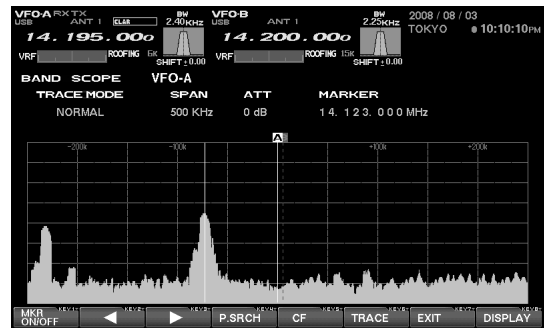
↑ マーカー設定画面 ↑ マーカーの位置をセンターに戻す

スペクトラムスコープ機能の使い方

その他の機能の使い方

◎ピークサーチを使用して強い信号を探す

[F1(FUNC)]を押してマーカー設定画面にします。次に[F4(P.SRCH)]を押すと、表示レベルのピークを探することができます。押すたびにそのタイミングで最も強力なレベルのところへ移動します。また、[F5(CF)]センター周波数を押すとワンタッチでマーカーの位置をセンターにし、その周波数を受信します。



↑
ピークサーチモード選択

◎トレースモードを変える

[F1(FUNC)]を押してマーカー設定画面にします。次に[F6(TRACE)]を押すと、TRACE MODE (トレースモード) を選択することができます。

トレースモードは、押すごとに下記のように切り換わります。

NORMAL → AVERAGE →

PEAK HOLD P → NORMAL に戻る

- **NORMAL**

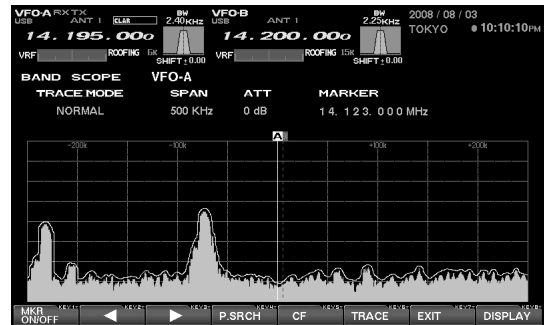
受信レベルを表示します。通常はこのモードで使用します。

- **AVERAGE**

受信レベルとアベレージレベルを表示します。

- **PEAK HOLD P**

ピークレベルを保持した状態で受信レベルを表示します。

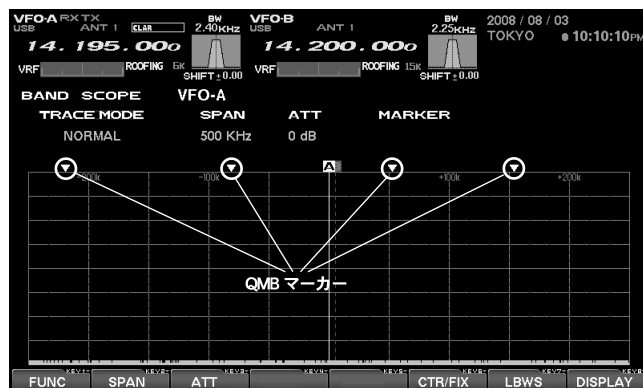


↑
トレースモード選択

(上図は PEAK HOLD P を選択したときの表示です。)

QMB マーカー

QMB にメモリーしてある周波数をスペクトラムスコープ上へ表示されます。スペクトラムスコープの横軸上面に QMB マーカー (白色の▽マーク) が表示されます (下図参照)。



上図は 14MHz 帯に 5 チャンネルの QMB MARKER を表示されている例

アドバイス

- FT-2000 Series のメニューモード「No.014 DISPLAY QMB MARKER」(FT-950 Series は「013 QMB MKR」、FTdx5000 Series は「016 QMB MKR」) の設定により QMB MARKER “▽マーク” の表示を ON(ENABLE)/OFF (DISAE) することができます。
- QMB MARKER (▽) はディスプレイの色に関わらず白色に表示されます。
- スペクトラムスコープの設定を LBWS モードに設定すると QMB MARKER は表示されません。

スペクトラムスコープ機能の使い方

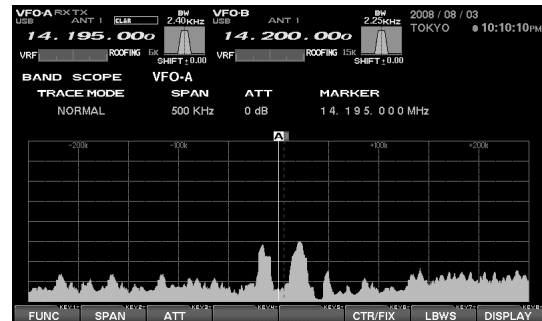
LBWS 機能の使い方

LBWSは、画面全体のスパン(帯域幅)を変えずに画面の一部だけを高速でスイープすることができる機能です。スイープする帯域を狭くするほどスピードが速くなり信号を正確にモニターすることが可能になります。帯域幅は画面全体の50%, 30%, 10%に設定することができ、スイープの速度は、50%で約2倍、30%で約3倍、10%で約10倍となります。

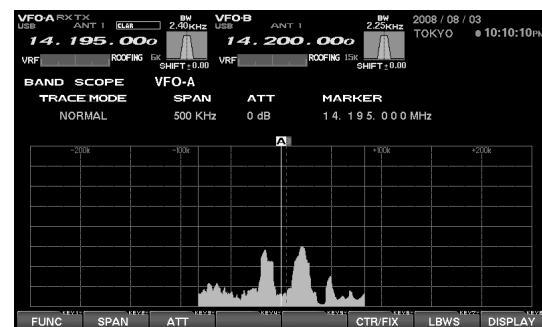
1. **[F6(CTR/FIX)]**を押すとCTR(センター)モードとFIX(固定)モードが切り替わります。CTR(センター)モードに切り替えます。
2. **[F2(SPAN)]**帯域幅を押して、SPANを最適な値に設定します。
押すごとに下記のように切り換わります。
25kHz → 50kHz → 100kHz → 250kHz →
500kHz → 1000kHz → 2500kHz →
25kHz に戻る
3. **[F3(ATT)]**アッテネータを押して、ATT値を最適な値に設定します。
押すごとに下記のように切り換わります。
0dB → 10dB → 20dB → 0dB に戻る
4. **[F7(LBWS)]**を押して、LBWS表示にします。
押すごとに下記のように切り換わります。
NORMAL → LBWS-1 (50%) → LBWS-2 (30%) →
LBWS-3 (10%) → NORMAL に戻る

ご注意 LBWSはCTR(センター)モードで動作します。FIX(固定)モードでは動作しませんのでご注意ください。

アドバイス **[F5(◀)]**、**[F6(▶)]**を押すとスイープしている位置を移動することができます。



↑
CTR/FIX モード切り替え



↑
LBWS の帯域幅切り替え

スペクトラムスコープ機能の使い方

FIX(固定)モードの使い方

アマチュア無線で使用するバンド内をモニターするために便利な機能です。画面左端のスタートポイントはメニューモードで設定することができます。画面のSPAN（帯域幅）を変えてもスタートの周波数は変わりません。画面を見ながら気になる波形にVFOの周波数を移動させることができます。

1. **[F6(CTR/FIX)]**を押すとCTR(センター)モードとFIX(固定)モードが切り替わります。FIX(固定)モードに切り替えます。

アドバイス CTR(センター)モードとFIX(固定)モードのどちらでも自局の周波数の位置は画面上に橙色の**[A]**で表示されますので大変便利です。

FIX(固定)モードの左端の周波数設定方法は、他の設定の変更と同様に**[MENU]**スイッチを短く押して画面をメニューモードします。MAINダイヤルツマミを回して変更したい項目(この場合は、(FT-2000 Seriesの場合はメニューモードの「No.105 SCOPE FIX 1.8MHz」～「No.115 SCOPE FIX 50MHz」(FT-950 Seriesは「073 SCP 1.8 FIX」～「083 SCP 50.0 FIX」, FTdx5000 Seriesは「131 SCP 1.8 FIX」～「141 SCP 50.0 FIX」)の中で設定したい項目)へ移動して、**[SUB VFO-B]**ツマミで内容を変更します。変更が終了しましたらかならず**[MENU]**スイッチを約2秒間押して変更を確定します。この際に変更をしたくない場合は、**[MENU]**スイッチを短く押せば、元の状態に戻ります。

メニューモードは設定が多く見づらいので、リストの左上に設定のグループを表示しています。まず関連のあるグループをMAINダイヤルツマミで選んでから、それぞれの項目を探すと便利です。

2. **[F2(SPAN)]**帯域幅を押して、見やすいSPANに変更します。

押すごとに下記のように切り換わります。

25kHz → 50kHz → 100kHz → 250kHz →
500kHz → 1000kHz →

2500kHz → 25kHz に戻る

3. **[F3(ATT)]**アッテネータを押して、アンテナの状態、コンデションに応じてATT値を変更します。

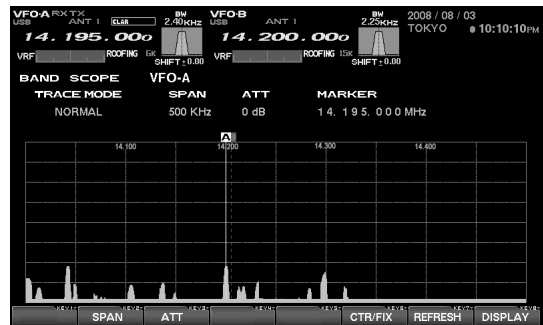
押すごとに下記のように切り換わります。

0dB → 10dB → 20dB → 0dB に戻る

4. メインダイヤルツマミをまわすと、受信周波数にあわせて**[A]**の位置が移動します。

受信周波数が画面の範囲外のときは、自局の位置を画面下部の左右に“<<<”“>>>”で表示し、さらに“RCV Freq is out of range”のコメントが表示されます。

5. CTR(センター)モードと同様にマーカーを使用することができます。詳しくは、28ページの「マーカーの使い方」を参考にしてください。



↑ SPAN 切り替え
↑ ATT 切り替え
↑ CTR/FIX モード切り替え
↑ REFRESH 実行

アドバイス 29ページのトレースモード(“AVERAGE”と“PEAK HOLD”)に設定している場合は、**[F6(REFRESH)]**を押すことにより、現在の表示を中断させて再表示することができます。

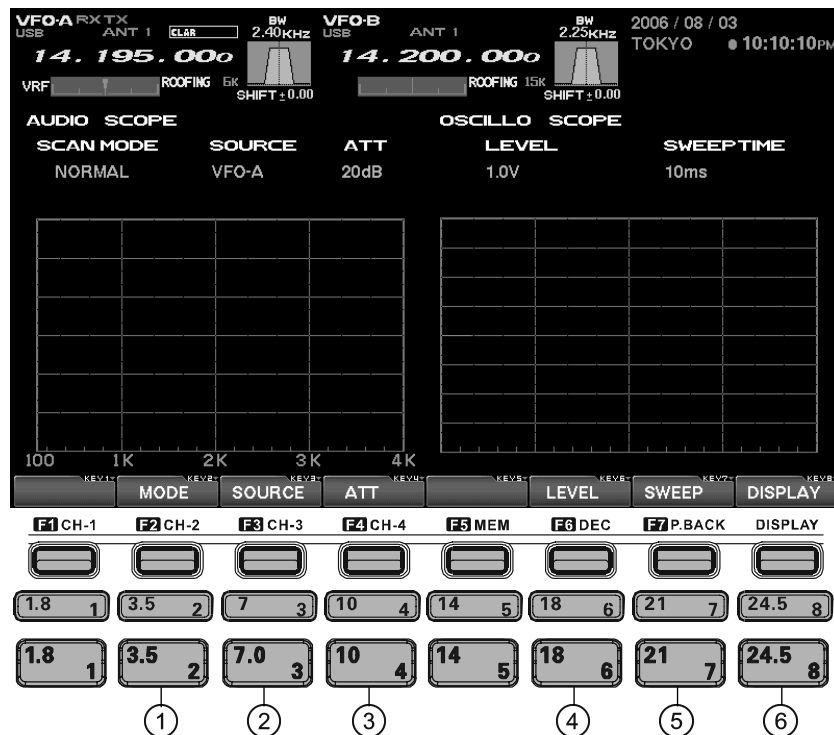
オーディオスコープ/オシロスコープ機能の使い方

オーディオスコープ/オシロスコープ機能とは

オーディオスコープ機能とオシロスコープ機能を画面に同時に表示することができます。オーディオスコープ機能では画面の横軸は周波数となり、送信信号の帯域内周波数成分をチェックすることができます。オシロスコープでは横軸は時間軸となり、受信帯域内の受信信号の波形や、送信時の波形をモニターすることができます。

オーディオスコープ/オシロスコープの画面が表示されていない場合は、[DISPLAY]を短く押してページセレクトキー画面にしてから[F3(AF SCOPE)]を押してオーディオスコープ/オシロスコープの画面を選択してください（13 ページ参照）。

オーディオスコープ/オシロスコープ機能が表示されている画面のファンクションキーの説明



① [F2(MODE)]

画面左側のオーディオスコープのSCAN MODEを変更します。押すたびに下記のように切り換わります。

NORMAL → **WF-1** → **WF-2** → **NORMAL** に戻る

WF-1 と WF-2 はウォーターフォール表示になります。WF-2 は WF-1 にくらべスイープ時間が速くなります。

② [F3(SOURCE)]

オーディオスコープの信号ソースを選択します。押すたびに下記のように切り替わります。

VFO-A → **VFO-B** → **EXT** → **VFO-A** に戻る

EXT は DMU-2000 の背面にある“AUDIO IN”に外部機器を接続して、オーディオ周波数帯の波形を観測することができます。

③ [F4(ATT)]

オーディオスコープのアッテネータ値を変更します。信号にあわせて最適な値に設定します。押すたびに下記のように切り換わります。

0dB → **10dB** → **20dB** → **0dB** に戻る

④ [F6(LEVEL)]

画面右側のオシロスコープの感度を調節します。画面を見ながら見やすいレベルに設定してください。

0.3V → **0.1V** → **1.0V** → **0.3V** に戻る

⑤ [F7(SWEEP)]

オシロスコープのスイープ時間を変更します。画面を見ながら見やすいレベルに設定してください。

10ms → **30ms** → **100ms** →

300ms → **1s** → **10ms** に戻る

⑥ [F8(DISPLAY)]

短く押すと“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。約 2 秒間押すとファンクションキーの機能を“OFF”にすることができます。

オーディオスコープ / オシロスコープ機能の使い方

オーディオスコープの使い方

スペクトラム表示の場合、送信時は送信信号の帯域内周波数成分をチェックしたり、スピーチプロセッサでの送信パワーのチェックや、パラメトリックイコライザーによる音質周波数成分の変化をチェックすることができます。

受信時は受信波形をモニターしたり、受信電波のスペクトラム成分をモニターすることができます。ウォーターフォール表示の場合は、CW運用において信号と通過帯域の関係を確認することができます。WF-2はWF-1にくらべスイープ時間が速くなります。

1. [F2(MODE)]を押して、SCAN MODE を変更します。

押すたびに下記のように切り換わります。

NORMAL → **WF-1** → **WF-2** → **NORMAL** に戻る
NORMALはスペクトラム表示になります。
WF-1とWF-2はウォーターフォール表示になります。WF-2はWF-1にくらべスイープ時間が速くなります。

2. [F3(SOURCE)]を押して、信号ソースを選択します。

押すたびに下記のように切り換わります。

VFO-A → **VFO-B** → **EXT** → **VFO-A** に戻る

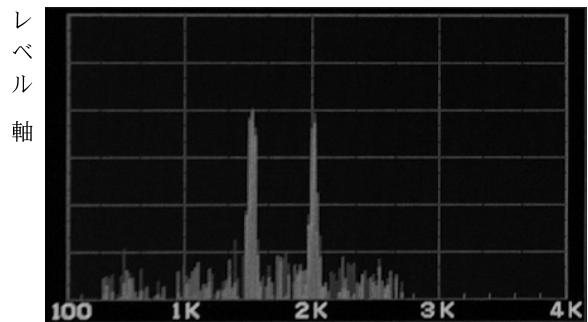
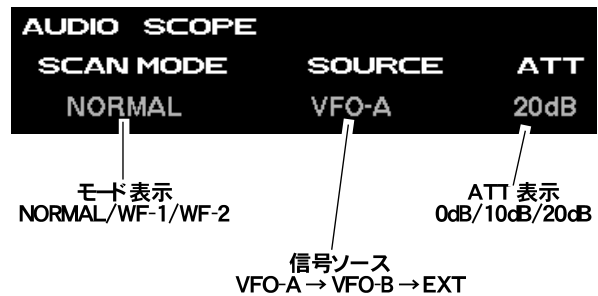
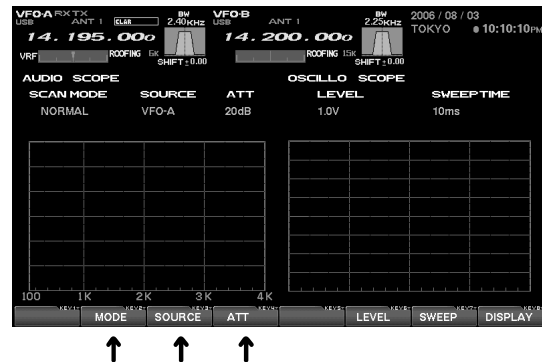
アドバイス オーディオスコープを使って、CONTOUR (コンツアー) の動作状況やIF NOTCHの動作状況、WIDTH/SHIFTの状況などを確認するととても便利です。

EXTは本機の背面にある“AUDIO IN”に外部機器を接続して、オーディオ入力を測定することができます。

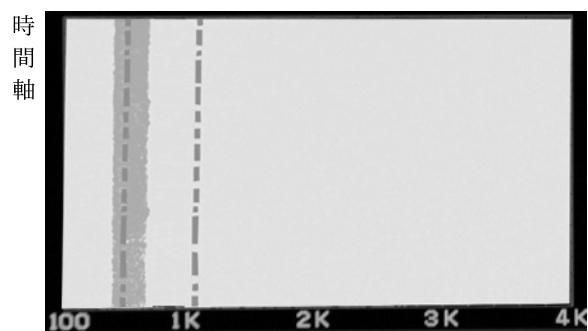
3. 必要に応じて[F4(ATT)]アッテネータを押し、アッテネータの値を変更します。

押すたびに下記のように切り換わります。

0dB → **10dB** → **20dB** → **0dB** に戻る



スペクトラム表示



ウォーターフォール表示

オーディオスコープ / オシロスコープ機能の使い方

オシロスコープの使い方

送信時は送信音声波形をモニター，受信時は受信した局の音声やCW波形をモニターすることができます。またスピーチプロセッサのゲイン調整などにも使うことができます。

1. [F6(LEVEL)]を押して，必要に応じてLEVELを最適な値に設定します。

押すたびに下記のように切り換わります。

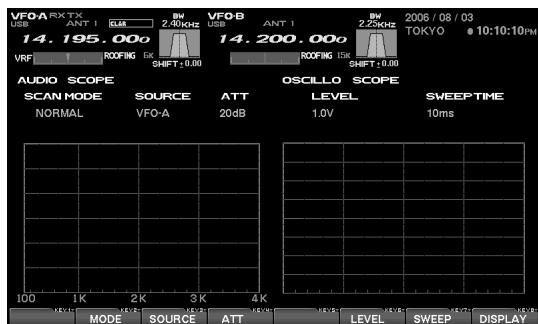
0.3V → 0.1V → 1.0V → 0.3V に戻る

2. 必要に応じて[7/18(SWEEP)]を押し，スイープ時間を最適な値に設定します。

押すたびに下記のように切り換わります。

10ms → 30ms → 100ms →

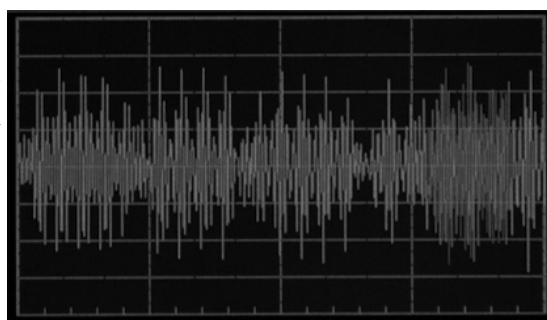
300ms → 1s → 10ms に戻る



入力レベル表示
1.0 / 0.3 / 0.1V

スイープタイム表示
10ms / 30ms / 100ms / 300ms / 1s

レベル軸



時間軸

アドバイス 送信音声波形をモニターする場合は，本機の【MON】スイッチを“ON”にしてください。

オーディオスコープとオシロスコープの定格

◎オーディオスコープ

周波数範囲 100Hz ~ 4kHz

分解能 (周波数) 約 20Hz

表示レベル 約 80dB

信号処理 FFT (高速フーリエ変換)

入力レベル 1Vp-p 入力(ADC 値を最大レベル)，ATT=0 で画面最上部，以下 10dB で 1DIV，20dB で 2DIV 表示を下にシフト

◎オシロスコープ

周波数範囲 0 ~ 4kHz

スイープ時間 10/30/100/300/1000ms 切換

時間軸表示 1 画面 10DIV (20 目盛) “スイープ時間 / 20”

500 μs / 1.5ms / 5ms / 15ms / 50ms / DIV

信号処理 AC レベル検出でシンクロ機能

入力レベル 1Vp-p 入力(ADC 値を最大レベル)

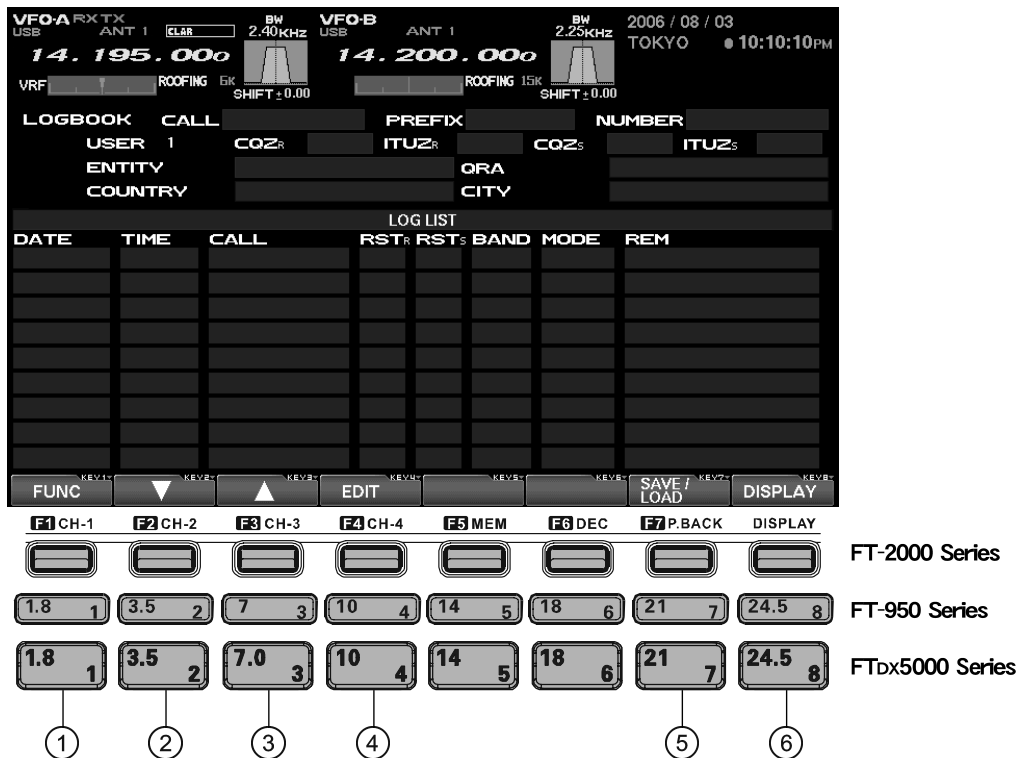
ログブック機能の使い方

ログブック機能とは

キーボードを背面のコネクター (PS/2 または USB 端子) に接続し、 交信記録を入力してログブックを作成することができます。 交信日時、周波数、モードは自動的に入力されますので、コールサインを入力するだけで簡単にログブックを管理することができます。 交信内容は CF カードに記録することができます。

ログブックの画面が表示されていない場合は、[DISPLAY]を短く押してページセレクトキー画面にしてから[F4(LOG BOOK)]を押して、ログブックの画面を選択してください (13 ページ参照)。

ログブック機能が表示されている画面のファンクションキーの説明



① [F1(FUNC)]

以前に QSO をしたことがあるか確認する “CHECK” や、5 人までのユーザー登録、各ユーザーごとの設定を登録可能な “CONFIG”，各バンドごとに運用モードのサマリーチェックする “SUMMARY” など設定画面へ移動することができます。また、サマリーはログを指定することができます。現在開いているログ (CURRENT-OP) または、現在開いているログと CF カードに保存されている全てのログ (ALL-OP) かを指定することができます。

② [F2(▼)]

ログリストのダウンキーとして動作します。

③ [F3(▲)]

ログリストのアップキーとして動作します。

④ [F4(EDIT)]

一度入力したログデータを編集する画面へ移動します。

⑤ [F7(SAVE/LOAD)]

ログデータをセーブまたはロードする画面へ移動することができます。

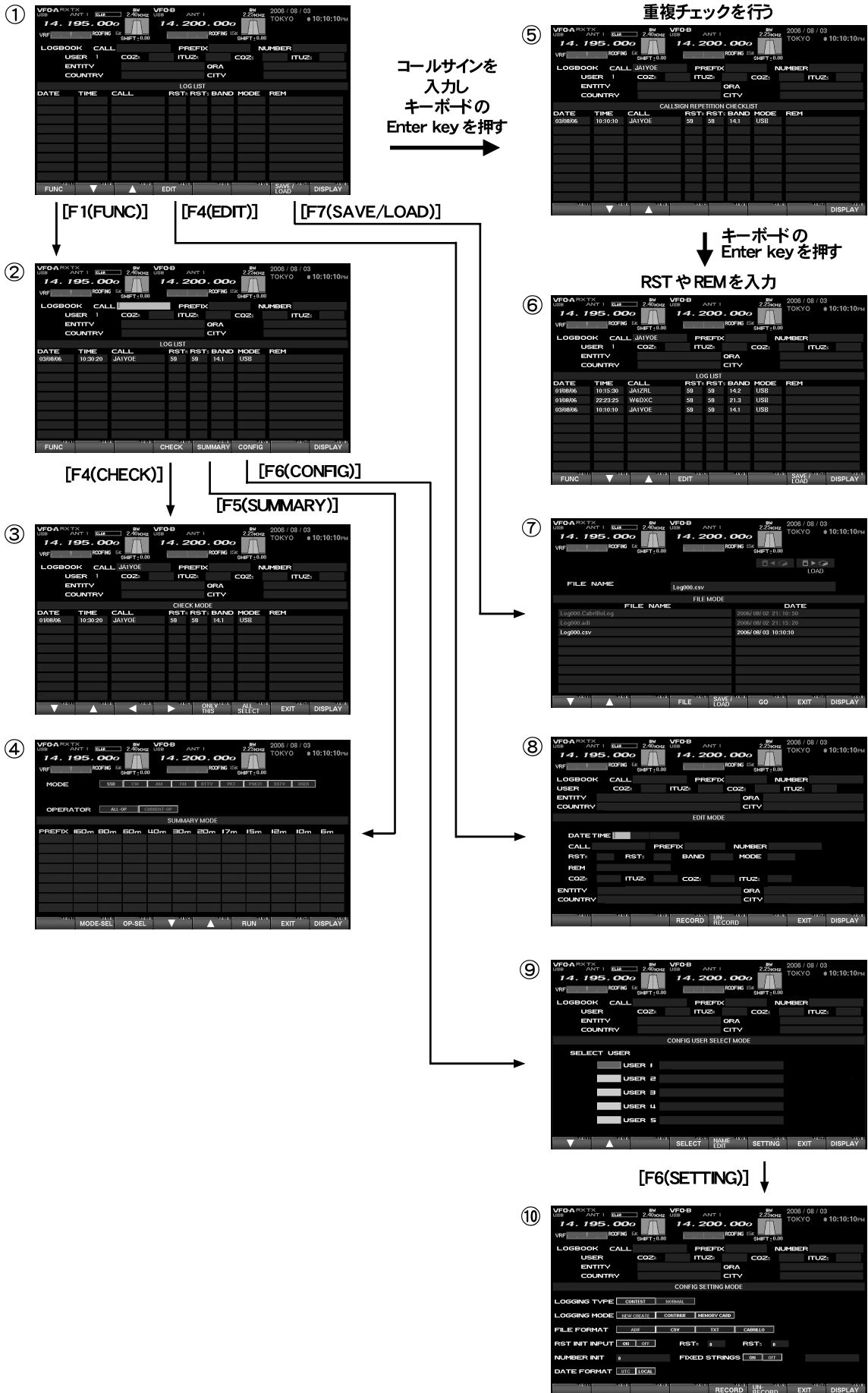
⑥ [F8(DISPLAY)]

短く押すと “ページセレクトキー” として他の画面へ移動することができます。

約 2 秒間押すとファンクションキーの機能を “OFF” にすることができます。

ログブック機能の使い方

ログブック階層図



ログブック機能の使い方

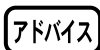
ユーザー設定 (CONFIG)

5人までのユーザーを登録することができます。コンテストなどで本機を複数のユーザーが使用する場合にユーザー登録をしておくと、各ユーザーごとにプリセット値を記憶することができます。さらに、NAME 欄にコールサイン、オペレータネームを入力することができます。

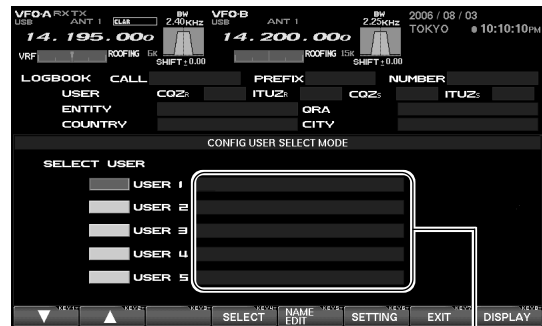
1. 37 ページの②の画面から [F6(CONFIG)] を押し、[F1(▼)]、[F2(▲)] で “SELECT USER” を選択します。
2. 新しいユーザーを登録したり、既存のユーザーの名前を変える場合は、[F5(NAME EDIT)] を押し、キーボードでコールサインなどを入力します。
3. [F5(NAME EDIT)] を押します。
4. [F6(SETTING)] を押して、“CONFIG SETTING MODE” にし、キーボードの矢印キーで好みの設定にします。
“CONFIG SETTING MODE” の説明は下記を参照してください。
5. [F5(RECORD)] を押して登録します。

DMU-2000 の内部メモリーに登録されます。

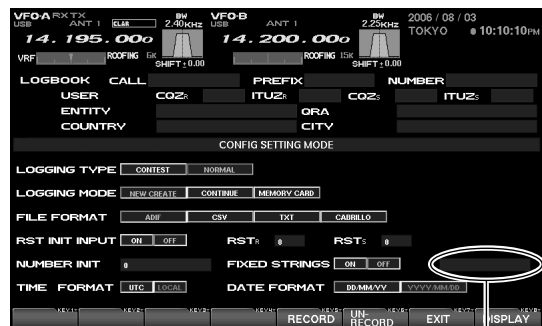
登録しない場合は [F6(UN-RECORD)] を押します。



特にユーザー設定をしない場合は、USER 1 に登録されます。



ユーザー登録画面 NAME 欄



ユーザー登録編集画面 FIXED STRINGS のメモ欄

CONFIG SETTING MODE の説明

LOGGING TYPE (ログのタイプを選択します)

- ・ **CONTEST** - コールサイン, RST, REM を入力するだけで DATE, TIME, BAND, MODE の各データは自動的に入力されます。
- ・ **NORMAL** - コールサイン, PREFIX, RST, REM のほかに COUNTRY, CITY や QRA などの入力を追加することが可能です。DATE, TIME, BAND, MODE の各データは自動的に入力されます。

LOGGING MODE (ログデータのタイプを選択します)

- ・ **NEW CREATE** - [5/10(RECORD)] を押し [7/18(EXIT)] を押し、ログブックを新規作成します。
- ・ **CONTINUE** - 現在のログブックにログデータを追加します。
- ・ **MEMORY CARD** - 主電源を ON 時に、毎回 CF カードからログデータを読み込む (ロード) 画面を表示します (ロードの仕方は 41 ページを参照)。

FILE FORMAT (ログデータのファイル形式を選択します)

- ・ **ADIF** - DX コンテスト電子ログに使用されている世界標準フォーマットです。
- ・ **CSV** - カンマ区切りのフォーマットです。
- ・ **TXT** - テキストのフォーマットです。
- ・ **CABRILLO** - DX コンテスト電子ログに使用されている世界標準フォーマットです。

RST INIT INPUT (RST の項目に自動で入力されます)

- ・ **ON** - あらかじめ RSTR と RSTS に RST (例えば 599) を入力しておく、ログ入力時に自動で RSTR と RSTS の項目に入力されます。また、キーボードで修正することもできます。
- ・ **OFF** - CW モード時は 599 が自動的に入力され、その他のモードでは 59 が自動的に入力します。キーボードで修正可能です。

NUMBER INIT (ナンバーの初期値を設定します)

コンテストナンバーなどの初期値を入力する欄です。入力したナンバーからインクリメントします。コンテストメモリーキーヤを使用せずに、縦振電鍵などを使ったときに便利なメモ欄です。

FIXED STRINGS (コンテストのマルチとナンバーを表示するメモ欄を ON/OFF します)

- ・ **ON** - CW コンテストなどで相手に送るマルチなどを入力しておく欄です。例えば、NUMBER INIT でナンバーを入力しておく、ログ画面右上の “NUMBER” にマルチとナンバーを表示することができます。コンテストメモリーキーヤを使用せずに、縦振電鍵などを使ったときにこのメモ欄を見ながらキーイングすると重複番号の誤送信がなくなります。
- ・ **OFF** - マルチ入力のメモ欄が必要ないときは OFF にしておきます。

TIME FORMAT (ログに記載する UTC 時間または LOCAL 時間の設定をします)

ログに入力する時間を UTC (LOCAL TIME-1 の時間を UTC に変換した時間) にするか LOCAL (LOCAL TIME-1 の時間) にするか設定します。

DATE FORMAT (ログに記載する DATE を日/月/年または年/月/日の表示設定をします)

ログに入力する DATE を DD/MM/YY または YYYY/MM/DD の表示に設定します。例として 2006 年 7 月 31 日のときは、DD/MM/YY に設定すると 31/07/06 となり、YYYY/MM/DD に設定すると 2006/07/31 となります。

ログブックの入力

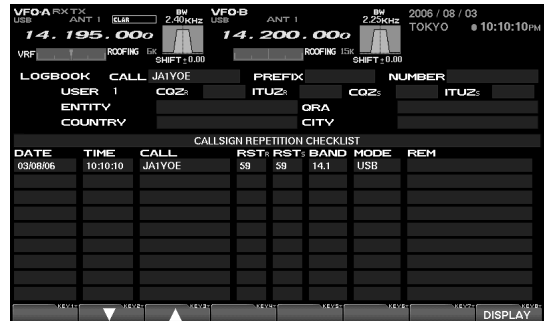
ログデータを入力することができます。ユーザー設定 (CONFIG) の LOGGING TYPE で「CONTEST」に選択した場合は、コールサイン、RST、REM (REMARKS) を入力するだけで DATE、TIME、BAND、MODE は自動的に入力されます。また「NORMAL」に選択した場合は、COUNTRY、CITY や QRA などの情報を入力することができます。画面にしたがいログデータを入力してください。なお、入力件数は 1 ファイルにつき 5000 件まで可能です。

あらかじめユーザー設定 (CONFIG) の CONFIG SETTING MODE を設定しておくことお勧めします。

- 37 ページの①の画面からキーボードで CALL にコールサインを入力し、「ENTER」キーを押します。
- 以前相手局と交信している場合は、自動的に重複チェックをし、重複している場合は「CALLSIGN REPETITION CHECKLIST」が開き、重複件数を表示します。
重複チェック後、QSO せずにログに入力しない場合は、キーボードの「ESC」キーを押します。
- 画面にしたがいデータを入力してください。入力後必ずキーボードの「ENTER」キーを押してください。

ご注意

ログデータの破損、削除などのトラブルにならないよう、こまめにデータをセーブしてください。また、データ以外に紙のログ帳にも記載することをお勧めします。上記のトラブルが生じた場合は、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご承知おきください。



ログブック入力画面

ワポイント

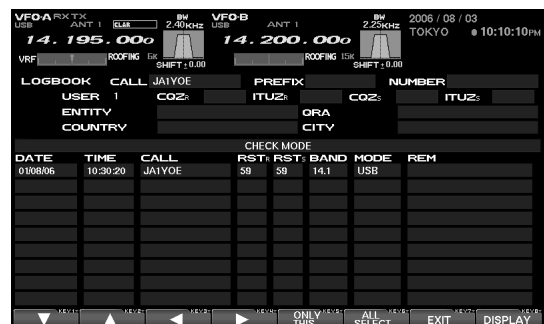
PREFIX, CQZR (または ITUZR), ENTITY, QRA, を入力するときは、あらかじめユーザー設定 (CONFIG) で LOGGING TYPE を「NORMAL」に登録してください。キーボードの「ENTER」キーを押すごとに各項目に移動して入力することができます。また、PREFIX を入力して (例えば日本では JA, JH, 7K...) 「ENTER」キーを押すと PREFIX SELECT LIST が表示され ENTITY, CQZR, (または ITUZR), 等を自動入力することができます。COUNTRY は手動で入力することができます。

ITUZR はキーボードの「ENTER」キーで CQZR にカーソルを移動したときに、キーボードの矢印キーで ITUZR へカーソルを移動することができます。

ログブックの重複チェック (CHECK)

以前に QSO をしたことがあるかマニュアルで重複確認をすることができます。また、重複確認をして以前の記録から内容をコピーし、ログを入力することができます。

- 37 ページの②の画面から CALL にコールサインを入力します。
- [F4(CHECK)]を押すと、以前 QSO をしている場合は「CHECK MODE」リストに表示されます。
- [F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)]でリストをスクロールすることができます。



ログブック重複チェック画面

ワポイント

手順 2. で重複確認をした以前の記録の内容をコピーし、ログへ入力することができます。

[F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)]で CALL, RST, BAND, MODE, REM の中からコピーしたい項目を選択し、[F5(ONLY THIS)]を押します (複数選択する場合はコピーしたい項目を選択し、[F5(ONLY THIS)]を押します)。[F7(EXIT)]を押すと 37 ページの①の画面に切り替わり、キーボードの「ENTER」キーを押して重複チェック画面へ、さらに「ENTER」キーを押すとログ入力画面に戻りコピーされます。
[F1(▼)], [F2(▲)]でコピーしたい交信データの一行を選択し、[F6(ALL SELECT)]を押して[F7(EXIT)]を押すと 37 ページの①の画面に切り替わり、キーボードの「ENTER」キーを押して重複チェック画面へ、さらに「ENTER」キーを押すとログ入力画面に戻りコピーされます (ただし、NUMBER, RST, BAND, MODE はコピーされません)。

ログブック機能の使い方

ログブックの編集 (EDIT)

一度入力したログデータを編集することができます。

1. 37 ページの①の画面から[F2(▼)], [F3(▲)]により修正したいログデータを選択します。
2. [F4(EDIT)]を押し、修正画面を開きます。
3. キーボードの矢印キーで修正する項目のカーソルをハイライトにして指定します。
4. キーボードで入力して修正します。
5. [F4(RECORD)]を押して修正を終了します。
修正しない場合は[F5(UN-RECORD)]を押します。

アドバイス

交信データを消去することができます。一つの交信を間違えて二回登録してしまった場合などに使用することができます。

消去方法は、手順 1. ~手順 2. により消去したいデータを選択しておき、キーボードの「ESC」キーを押すと全項目が消去され、[F4(RECORD)]を押すと 37 ページの①の入力画面に戻り終了します。



ログブック編集画面

ログデータのセーブ (SAVE)

ログデータを CF カードにセーブすることができます。

1. 37 ページの①の画面から[F7(SAVE/LOAD)]を押し、セーブ/ロード画面を開きます。
2. [F5(SAVE/LOAD)]を押し、SAVE を選択します。
セーブしたファイルが複数ある場合は、[F6(▼)]/[F7(▲)]でファイルを選択することができます。



セーブ/ロード画面

3. 以前セーブしたファイルに上書きしたい場合は、次の手順 4. へ進んでください。
上書きをしないで新しいファイルにデータをセーブする場合は[F4(FILE)]を押して FILE NAME をハイライトにし、ファイル名をキーボードで入力し、[F4(FILE)]を押して確定します。
4. [F6(GO)]を押してログデータを CF カードにセーブします。

ご注意

FILE NAME を入力中に拡張子を消去してセーブしないでください。拡張子を消去した状態でセーブしたログデータは、ロードすることができなくなります。

MEM CARD 表示の右側に「PLEASE CHECK A DISK」のエラーメッセージが表示された場合、CF カードが正しく挿入されているか確認してください。

すでに CF カードに入っているファイル名でセーブをすると、CF カードに入っている同じ名前のファイルは更新され以前のデータは消去されますのでご注意ください。

アドバイス

ユーザー設定 (CONFIG) の FILE FORMAT で「ADIF, CSV, TXT, CABRILLO」の 4 種類のファイル形式 (拡張子) を選択することができます。

各ファイル形式の拡張子は下記ようになります。

ADIF 国際標準ログフォーマット・・・adi

CSV カンマ区切りのフォーマット・・・csv

TXT のフォーマット・・・txt

CABRILLO 国際標準ログフォーマット・・・cabrillolog

サマリーチェックの機能を使いたい場合は、CSV または TXT で保存してください。

ログブックデータのロード (LOAD)

ログデータをロードすることができます。

1. 37 ページの①の画面から[F7(SAVE/LOAD)]を押し、セーブ / ロード画面を開きます。
2. [F5(SAVE/LOAD)]を押し、LOAD を選択します。



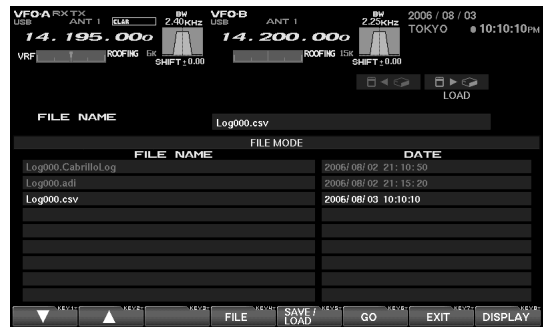
3. [F1(▼)], [F2(▲)]で FILE を選択し、[F6(GO)]を押しロードします。

ご注意 FILE NAME を入力中に拡張子を消去してセーブしたログデータは、ロードすることはできません。

MEM CARD 表示の右側に「PLEASE CHECK A DISK」のエラーメッセージが表示された場合は、CF カードが正しく挿入されているか確認してください。

メモリーデータをCF カードからロードすると、DMU-2000 の内部メモリーは新しい内容に更新され、いままでのデータは消去されますのでご注意ください。

ログの入力件数によっては時間が掛かることがあります。



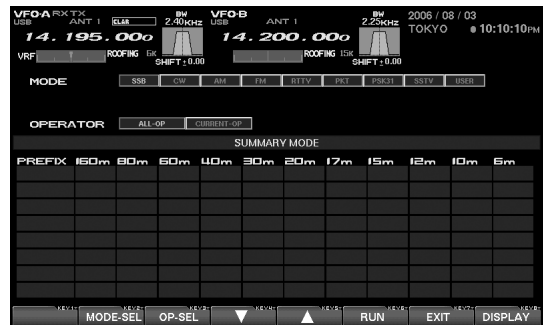
セーブ / ロード画面

サマリーチェック (SUMMARY)

バンドごとに運用モードを指定してサマリーチェックをすることができます。また、ログの保存場所を指定してログのサマリーを集計することができます。

◎運用モードでのサマリーチェック

1. 37 ページの②の画面から[F5(SUMMARY)]を押しサマリー画面にし、[F2(MODE-SEL)]を押しキーボードの矢印キーでMODE を選択します。
2. [F6(RUN)]を押すと、MODE で検索したサマリーリストを表示します。
3. [F4(▼)], [F5(▲)]でサマリーリストをスクロールすることができます。



サマリーチェック画面

◎ログ指定のサマリーチェック

1. 33 ページの②の画面から [F5(SUMMARY)]を押しサマリー画面にし、[F3(OP-SEL)]を押しキーボードの矢印キーで“ALL-OP”または“CURRENT-OP”どちらかを選択します。

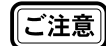
◎ ALL-OP

本体内部のメモリーに保存してあるログとCF カード内の全てのログを集計します。

◎ CURRENT-OP

本体内部のメモリーに保存してあるログを集計します。

2. [F6(RUN)]を押すと、OPERATOR で検索したサマリーリストを表示します。
3. [F4(▼)], [F5(▲)]でサマリーリストをスクロールすることができます。



サマリーチェックの機能は、あらかじめログタイプを“NORMAL”に設定しPREFIXを入力してあるログのみ使用することができます。

CSV または TXT の拡張子で保存した場合のみ、サマリーチェックの機能を使用することができます。

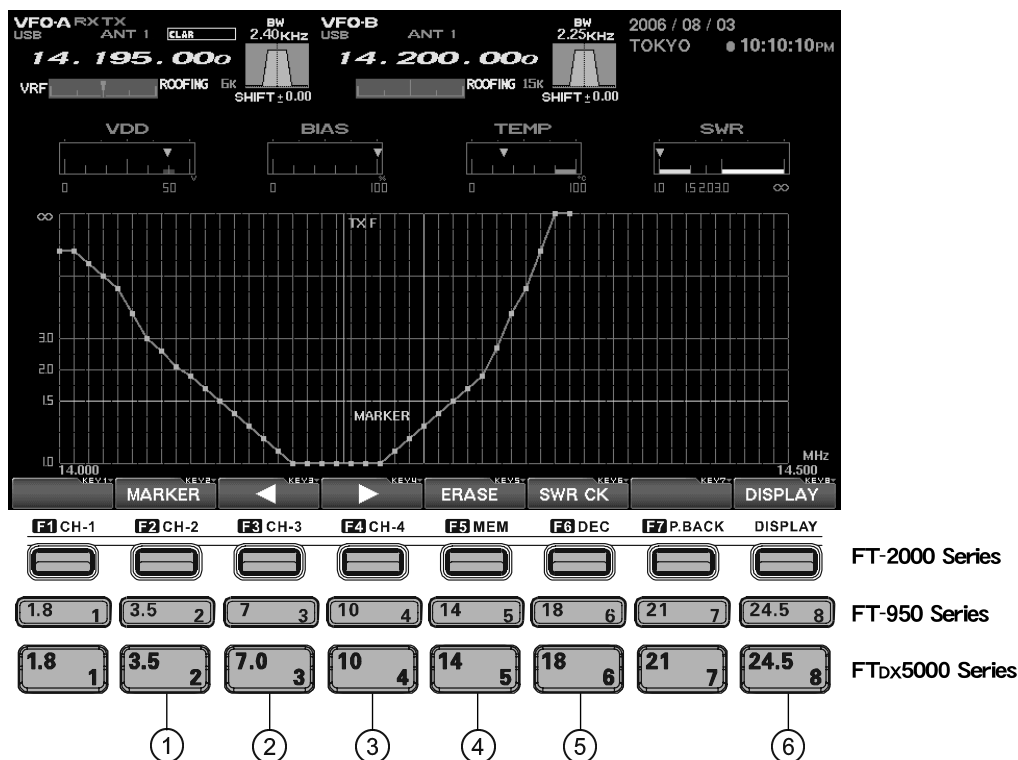
温度表示 / SWR 表示機能の使い方

温度表示 / SWR 表示機能とは

VDD (送信ファイナル段) 電圧, CLASS-A 時のバイアス電圧, 送信ファイナル部周辺の温度, アンテナの SWR 特性図を画面に表示することができます。

温度表示 / SWR の画面が表示されていない場合は, [DISPLAY] を短く押してページセレクトキー画面にしてから [F5(SWR)] を押して, 温度表示 / SWR の画面を選択してください (13 ページ参照)。

温度表示 / SWR 機能が表示されている画面のファンクションキーの説明



① [F2(MARKER)]

SWR 特性図のマーカを ON/OFF します。
SWR 特性図上にマーカカーソルラインを表示し、マーカの周波数における SWR を確認することができます。

② [F3(◀)]

マーカカーソルを左方向に移動することができます。

③ [F4(▶)]

マーカカーソルを右方向に移動することができます。

④ [F5(ERASE)]

マーカ点での SWR 測定値をクリアしたいときに押します。

⑤ [F6(SWR CK)]

SWR を測定するときに押します。
メインダイヤルツマミをまわして、測定したい周波数にあわせ、[F6(SWR CK)] を押すとその周波数における SWR を測定し、画面上にプロットします。

⑥ [F8(DISPLAY)]

短く押すと“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。
約 2 秒間押すとファンクションキーの機能を“OFF”にすることができます。

温度表示 / SWR 表示機能の使い方

グラフィックメーターの説明



① VDD

終段 FET のドレイン電圧を測定することができます。測定範囲は 0V ~ 18V となっており、適正なドレイン電圧は 13.8V です (FT-2000D 及び FTDX5000 Series の 200W モデルの測定範囲は 0V ~ 60V となっており、適正なドレイン電圧は 50V です)。送信時にだいたい 13.8V 付近を表示していれば正常です (FT-2000D 及び FTDX5000 Series の 200W モデルの場合は、50V 付近を表示していれば正常です)。

② BIAS

FT-2000D のメニューモードの「TX GNRL 141 FINAL BIAS」及び FTDX5000 Series の場合は、メニューモードの「169 TGEN BIAS」で A 級増幅から AB 級増幅にバイアスを可変するとき、目安として使用することができます。0 ~ 100% で表示され、0% は AB 級増幅、100% は A 級増幅を表します。バイアスを可変しても送信出力は一定ですので、リニアアンプを接続しているときでも安心してバイアス調整をおこなうことができます。

③ TEMP

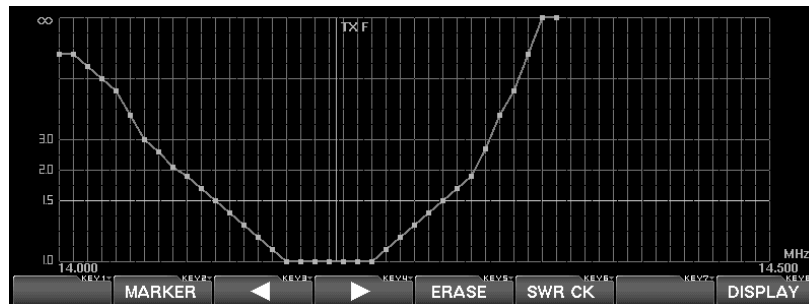
終段 FET 周辺の温度を測定しています。測定範囲は 0 ~ 100°C で、80°C 以上がレッドゾーン表示となっています。温度上昇にもなってクーリングファンの回転速度が 4 段階で切り換わり、温度上昇を防ぎます。通常の運用では 80°C 以上になることはありませんが、室温が高い場合などに CLASS-A (A 級増幅) で連続送信を行うと温度が 80°C 以上になることがあります。そのような場合にはバイアスを AB 級増幅に近いところへ動かすなどして終段 FET の発熱量を抑えてください。

④ SWR

現在運用しているアマチュアバンド内の各ポイント測定したアンテナの SWR 特性図を表示します。

SWR 特性図による測定

アマチュアバンド内の各ポイント測定してアンテナの SWR 特性図を表示することができます。



アンテナの SWR を測定する場合は、アンテナの SWR を正しく測定するためにアンテナチューナー **[TUNE]** スイッチを OFF にしてから測定してください。

1. 送信出力が 10W 以上に設定してあるか確認してください。アンテナの正確な SWR を測定するためには 10W 以上の送信出力が必要です。送信出力は **[RF PWR]** ツマミで調整してください。
2. MAIN ダイアルツマミで測定したいポイントの送信周波数にあわせます。
3. 交信している局に妨害を与えないことを確認してから **[F6(SWR CK)]** を押します。自動的に CW モードで送信し、SWR を測定します。

4. 手順 2., 3. の操作を繰り返し、各測定ポイントの SWR を測定すると、自動的に画面上にその周波数帯の SWR 特性図が描かれます。

アドバイス

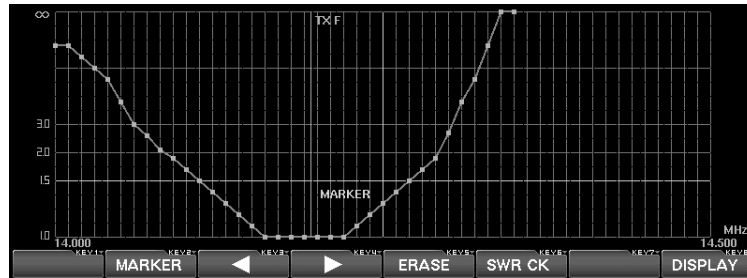
測定した SWR は 1.8 ~ 24MHz 帯は 10kHz、28/50MHz 帯は 100kHz 未満の周波数を切り捨てをして周波数を記憶し、画面上にプロットします。同一周波数で測定した場合は以前の測定値がクリアされ、新しい測定値にオーバーライトされます。

送信する際はその周波数帯ですで行われている交信に妨害を与える恐れのないことを確認してください。

温度表示 / SWR 表示機能の使い方

マーカーによる SWR の測定

「SWR 特性図による測定」で測定した SWR 特性図の画面上の任意のポイントにマーカーカーソルラインを移動して、その周波数での SWR を直読することができます。



1. **[F2(MARKER)]**を押して“ON”にするとマーカーカーソルラインが表示されます。
2. **[F3(◀)]**, **[F4(▶)]**を使用してマーカーカーソルラインを移動させ、希望の周波数にあわせませす。

アドバイス

SWR が 1.5 以下のアンテナを使用するようにしてください。SWR が 1.5 以上になると終段 FET を保護する保護回路が働き送信出力が下がる場合があります。

SWR が 1.5 以下であればマッチングの状態は良好です。SWR が 1.5 以上である場合は、アンテナのマッチングを再調整してください。

アマチュアバンド内で SWR が 3 以上ある場合は、アンテナまたは同軸ケーブルなどのアンテナ系に問題があると考えられます。そのままの状態でご使用になると終段 FET の破損などの事故につながる場合がありますのでご注意ください。

アンテナチューナは本機とアンテナの間のマッチングを取りますが、アンテナ自体の SWR を下げることはできません。アンテナ自体の SWR を下げるのが重要です。

測定したマーカー点での SWR 測定値をクリアするときは**[F5(ERASE)]**を押します。

大圏地図／ローテーターコントロール機能の使い方

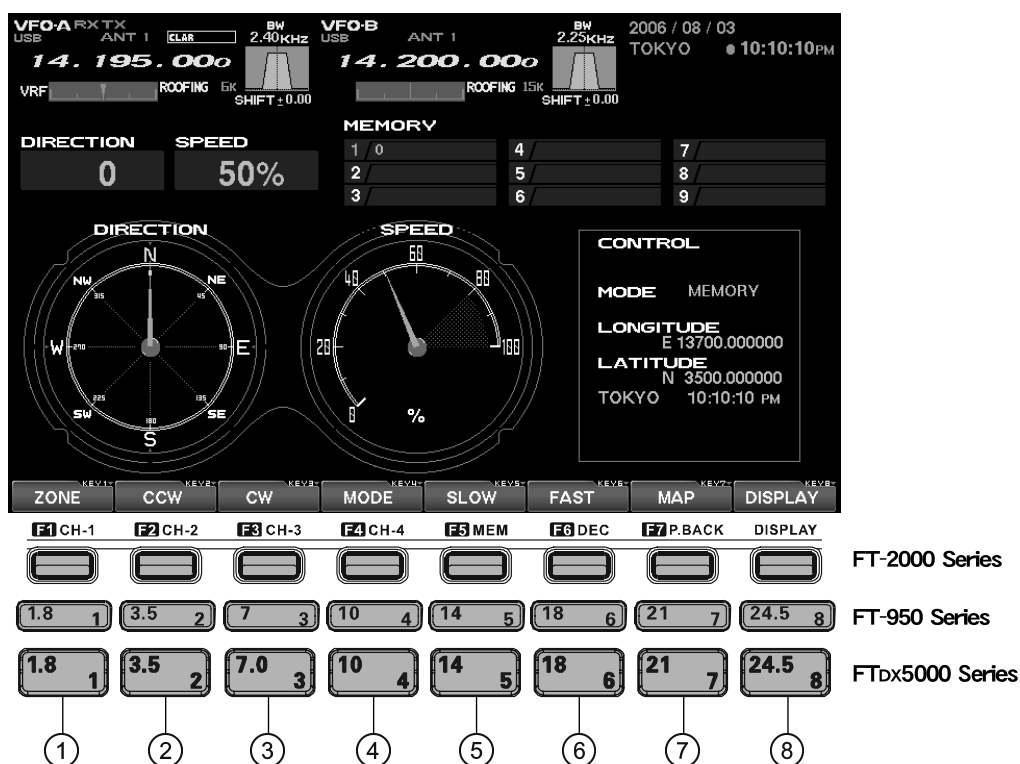
ローテーターコントロール機能とは

相手局へアンテナを向けるために便利な大圏地図を表示することができます。この大圏地図は自局の位置を中心に表示していますから、相手局の方角が簡単に確認することができます。

また YAESU のローテーター (G-800DXA,G-1000DXA,G-2300DXA,G-2800DXA) を接続することによってアンテナの回転方向や回転速度等をこの画面からコントロールすることができます。YAESU のローテーター (G-800DXA,G-1000DXA,G-2300DXA,G-2800DXA) をコントロールするには、無線機とローテーターを専用ケーブルで接続する必要があります。詳しい内容は、当社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

大圏地図／ローテーターコントロールの画面が表示されていない場合は、[DISPLAY]を短く押してページセレクトキー画面にしてから[F6(ROTATOR)]を押して、大圏地図／ローテーターコントロールの画面を選択してください (13 ページ参照)。

大圏地図／ローテーターコントロール機能が表示されている画面のファンクションキーの説明



① [F1(ZONE)]

相手局の位置を入力する画面へ移動します。国名、都市名を設定すると自局と相手局のポイントを直線で結び大圏地図上に表示します。相手局の位置はローテーターコントロールがマニュアルモードのときに設定することができます。

[F4(MODE)]を何度か押してマニュアルモードにします。モードは画面の中段に表示されます。

② [F2(CCW)]

YAESU のローテーター (G-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA, G-2800DXA) を使用し、背面のコネクタからローテータに接続することによって、アンテナを反時計方向に回すことができます。

③ [F3(CW)]

YAESU のローテーター (G-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA, G-2800DXA) を使用し背面のコネクタからローテーターに接続することによって、アンテナを時計方向に回すことができます。

大圏地図／ローテーターコントロール機能の使い方

④ [F4(MODE)]

モードの選択をします。
押すたびに下記のように切り換わります。
モードは画面の中段に表示されます。
MANUAL → PRESET → MEMORY → MANUAL
に戻る



モードの表示

[F5(SLOW)]

ローテーターの回転速度を遅くしたい場合に使用します。通常は100%で使用しますので、一度100%にセットすれば操作する必要はありません。

⑥ [F6(FAST)]

ローテーターの回転速度を速くしたい場合に使用します。通常は100%で使用しますので、一度100%にセットすれば操作する必要はありません。

⑦ [F7(MAP)]

大圏地図とローテーターコントロール表示を切り替えることができます。

アドバイス

大圏地図画面を常時表示しておけば、相手局の国名、都市名をいちいち入力しなくても、相手局のおおよその位置が大圏地図上でわかりますから、アンテナを操作する際に大変便利です。

自局の位置が大圏地図の中央にない場合は、ローカル時間（運用する地点の登録）の設定を行ってください。この設定を行わないと、ワールドクロック、大圏地図などの機能が正常に動作しませんのでご注意ください。ローカル時間の設定は、この説明書の、「初めにお読みください」を参考にしてください。

大圏地図を表示する場合は、ローテーターコントロール表示にくらべ多少時間が掛かることがあります。

⑧ [F8(DISPLAY)]

短く押すと“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。

約2秒間押すとファンクションキーの機能を“OFF”にすることができます。



大圏地図画面

大圏地図／ローテーターコントロール機能の使い方

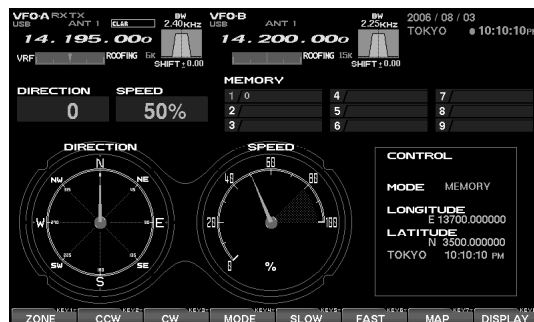
MANUAL モードの使い方

ローテーターをマニュアルで操作することができます。相手局の都市を設定すれば、大圏地図上に自局と相手局の間を直線で結んで表示しますので、その方向にアンテナを手動で回すことができます。

◎ マニュアル操作

[F2(CCW)]または[F3(CW)]を押して相手局の信号が強くなる方向にアンテナをまわします。

[F2(CCW)]は反時計方向に、または[F3(CW)]は時計方向にアンテナをまわすことができます。



ローテーターコントロール表示

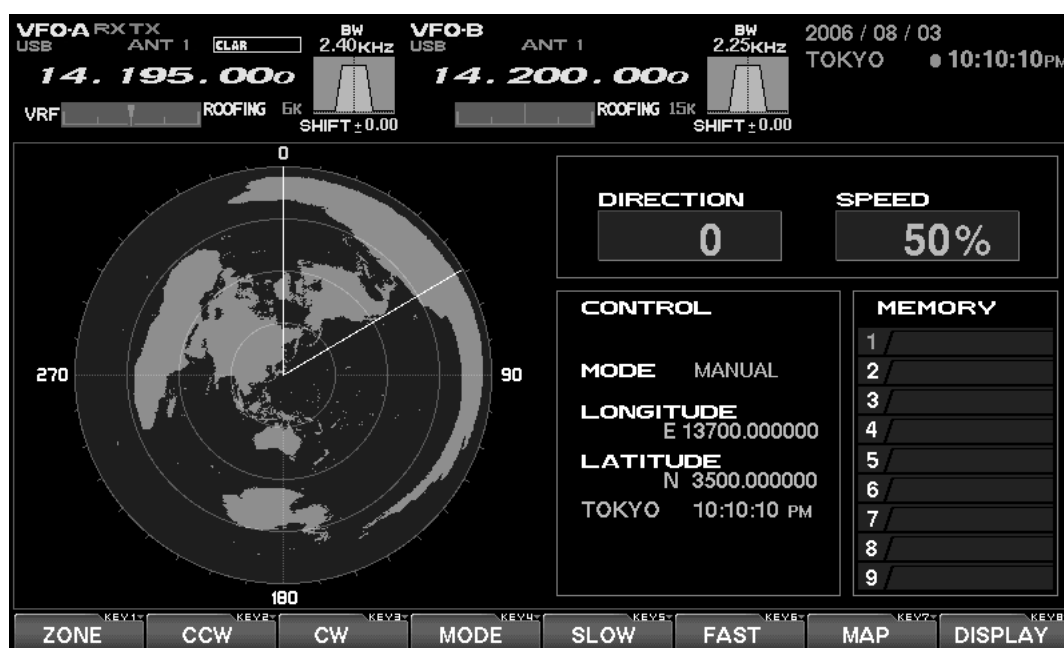
◎ 大圏地図に自局と相手局の都市を線で結んで表示し、アンテナを向ける

1. [F4(MODE)]を押して、MANUALモードを選択します。モードは画面の中段に表示されます。
2. [F7(MAP)]を押して、大圏地図を表示します。相手局の国名がわかればこの大圏地図を見ながら自局と相手局の位置を確認してアンテナを回します。
3. 相手局の方位角を大圏地図上に表示したい場合は、[F1(ZONE)]を押すと、ワールドマップのZONEが表示されます。

相手局のZONEを[F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)]を押して選択し、[F7(SELECT)]を短く押します。国名のリストが表示されますので、[F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)]により相手局の国名を選択、[F7(SELECT)]を短く押します。

都市名のリストが表示されますので、[F1(▼)], [F2(▲)], [F3(◀)], [F4(▶)]により都市名を選択、[F7(SELECT)]を押します。国によっては都市名が一つしかない場合がありますが、その都市を選択してください。

4. [F8(EXIT)]を押すと大圏地図画面もどき、相手局の位置をプロットして自局との間を直線で結びます。
5. [F2(CCW)], [F3(CW)]で相手局の方向にローテーターをまわします。



大圏地図によるアンテナ方位表示

大圏地図／ローテーターコントロール機能の使い方

PRESET モードの使い方

あらかじめローテーターの方向を設定しておき、自動で指定した方向にまわすことができます。YAESUのローテーター(G-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA, G-2800DXA)を使用し背面のコネクタからローテーターに接続する必要があります。

詳しくは当社カスタマーサポート(電話：0120-456-220)にお問い合わせください。

1. **[F4(MODE)]**を押して、PRESETモードに選択します。
2. **[F7(MAP)]**を押して、「ローテーターコントロール表示」または「大圏地図によるアンテナ方位表示」どちらの表示にするか選択します。
3. **[F2(CCW)]**, **[F3(CW)]**を押して相手局の方向へ設定します。
4. **[F5(START)]**を押すと回転を始め、設定した方向で自動的に止まります。
途中で停止したい場合は、**[F5(START)]**を押します。



ローテーターコントロール表示



大圏地図によるアンテナ方位表示

大圏地図／ローテーターコントロール機能の使い方

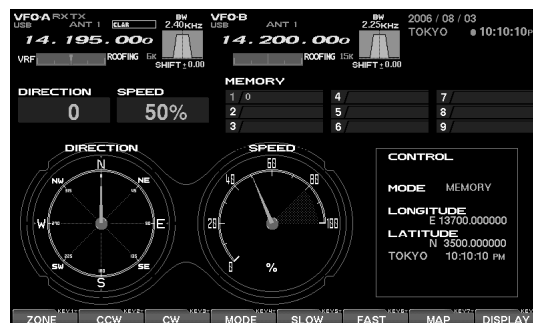
MEMORY モードの使い方

あらかじめローテーターの方向をメモリーしておき、自動でメモリーした方向にローテーターを回すことができます。YAESU のローテーター(G-800DXA, G-1000DXA, G-2300DXA, G-2800DXA) を使用し、背面のコネクタからローテーターに接続する必要があります。

詳しくは当社カスタマーサポート(電話：0120-456-220)にお問い合わせください。

◎メモリーの仕方

1. [F4(MODE)]を押して、MANUAL モードまたはPRESET モードに選択します。
2. 相手局の方向にローテーターをまわしておきます。
3. [F4(MODE)]を押して、MEMORY モードを選択します。
4. [F2(▼)], [F3(▲)]でメモリーチャンネルを指定し、[F6(MW)]を押してアンテナの方向をメモリーします。



ローテーターコントロール表示

アドバイス メモリーすることができる方向のデータ数は9までです。

市販のキーボードを接続しておくと、メモリーチャンネルに最大6文字の名前(タグ)をつけることができます。よく話をする相手局のコールサインなどを入力しておくとう便利です。入力方法は下記を参照してください。

1. [F2(▼)], [F3(▲)]でメモリーチャンネルを指定します。
2. キーボードの「ENTER」キーを押すと、青いカーソルが点灯します。
3. キーボードでコールサインなどを入力し「ENTER」キーを押します(最大6文字まで)。



大圏地図によるアンテナ方位表示

◎メモリーの呼び出し方

1. [F2(▼)], [F3(▲)]でメモリーチャンネルを指定します。
2. [F5(MR/ERASE)]を短く押すとメモリーした方向にローテーターが回ります。

◎メモリーの消し方

1. [F2(▼)], [F3(▲)]でメモリーチャンネルを指定します。
2. [F5(MR/ERASE)]を約2秒間押すとメモリーは消去されます。

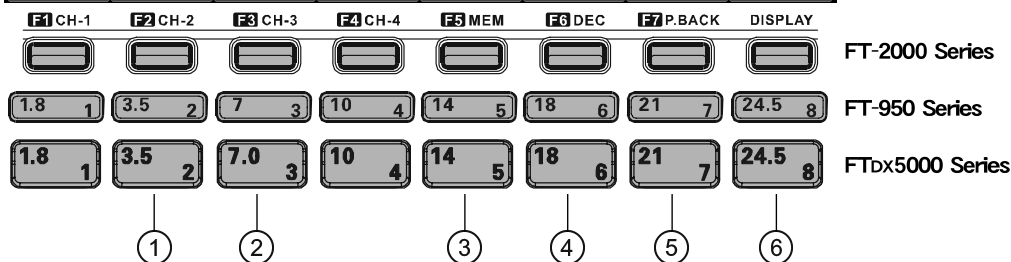
メモリーチャンネルリストの使い方

メモリーチャンネルリストとは

メモリーチャンネルの内容を表示する画面です。リストには、チャンネル番号、IDタグ、周波数、モードが表示されます。6グループ/99チャンネルの大容量メモリーを内蔵していますが、このスクリーンを使用することによってメモリーの内容を簡単にチェックすることができます。

メモリーチャンネルリストの画面が表示されていない場合は、[DISPLAY]を短く押してページセレクトキー画面にしてから[F7(MCH LIST)]を押して、メモリーチャンネルリストの画面を選択してください(13ページ参照)。

メモリーチャンネルリストが表示されている画面のファンクションキーの説明



① [F2(LOAD)]

メモリーデータをCFカードからロードする画面へ移動します。

② [F3(SAVE)]

メモリーデータをCFカードにセーブする画面へ移動します。

③ [F5(MASK/RESTORE)]

メモリーチャンネルのデータを消去することができます。消去したメモリーを復活したいときは、消去したあとにもう一度キーを押してください。

④ [F6(▼)]

メモリーリストのハイライト部分を下に移動することができます。

⑤ [F7(▲)]

メモリーリストのハイライト部分を上に移動することができます。

⑥ [F8(DISPLAY)]

短く押すと“ページセレクトキー”として他の画面へ移動することができます。約2秒間押すとファンクションキーの機能を“OFF”にすることができます。

メモリーチャンネルリストの使い方

メモリーチャンネルの消去 / 消去したメモリーの復活

必要がなくなったメモリーチャンネルを消去することができます。また、消去したメモリーを復活することもできます。

1. 必要がなくなったメモリーチャンネルを[F6(▼)], [F7(▲)]で選択します。
2. [F5(MASK/RESTORE)]を押して消去します。
消去したメモリーを復活させたいときは、もう一度[F5(MASK/RESTORE)]を押してください。

アドバイス メモリーチャンネルは、上書きしない限り消去したあともう一度同じキーを押すことで復活します。



↑
[F5(MASK/RESTORE)]を押す

メモリーデータのセーブ (SAVE)

市販のキーボードを接続しておく、ハイライトしている CH TAG 欄に最大 12 文字までの名前を付けることができ、下記の方法でメモリーデータを無線機の内部メモリーから CF カードへ移してセーブすることができます。

- アドバイス**
- CH TAG 欄のカーソル移動はキーボードの矢印キーで移動します。
 - Insert キーの ON/OFF に関係なく文字の上書きはできません。
 - 他のメモリーの CH TAG へ移動する場合は、[F6(▼)]/[F7(▲)]または [MAIN] ダイアルツマミで移動で移動します。
 - CH TAG は無線機のディスプレイには表示されません。DMU-2000 接続の外部モニターのみ表示されます。

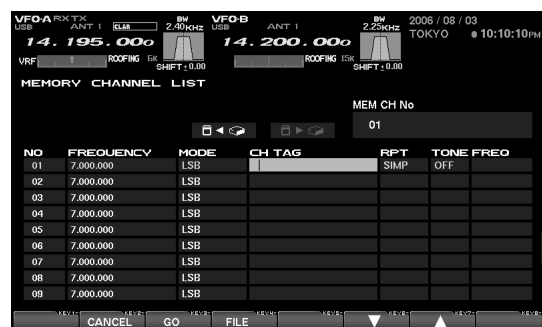
1. [F3(SAVE)]を押し、セーブ画面を開きます。
以前セーブしたファイルがある場合は、FILE NAME が表示されます。
セーブしたファイルが複数ある場合は、[F6(▼)]/[F7(▲)]でファイルを選択することができます。



2. 以前セーブしたファイルに上書きしたい場合は、次の手順 3. へ進んでください。
上書きをしないで新しいファイルにデータをセーブする場合は、[F4(FILE)]を押して FILE NAME をハイライトにし、ファイル名をキーボードで入力し、[F4(FILE)]を押します (拡張子は mcl になります)。
3. [F3(GO)]を押して、CF カードにセーブします。
キャンセルする場合は[F2(CANCEL)]を押します。



↑
[F3(SAVE)]を押す



ファンクションキーの機能が変わります

アドバイス MEM CARD 表示の右側に“CF CARD IS NOT READY”のエラーメッセージが表示された場合は、CF カードが正しく挿入されているか確認してください。

すでに CF カードに入っているファイル名でセーブをすると、CF カードに入っている同じ名前のファイルは更新され以前のデータは消去されますのでご注意ください。

メモリーチャンネルリストの使い方

メモリーデータのロード (LOAD)

メモリーのデータを CF カードから無線機の内部メモリーへ移します。

1. [F2(LOAD)]を押し、ロード画面を開きます。
FILE NAMEが複数ある場合は[F6(▼)], [F7(▲)]
で希望するファイルを選択します。



2. [F3(GO)]を押しロードします。
キャンセルする場合は[F2(CANCEL)]を押します。

アドバイス MEM CARD 表示の右側に「CF CARD IS NOT READY」のエラーメッセージが表示された場合は、CF カードが正しく挿入されているか確認してください。

ロードには 10 秒程度の時間がかかることがあります。ロードが終了したときは、画面表示の内容が変わります。

メモリーデータを CF カードからロードすると、無線機の内部メモリーは新しい内容に更新され、いままでのデータは消去されますのでご注意ください。



↑
[F2(LOAD)]を押す



ファンクションキーの機能が変わります

メニューモードの使い方

メニューモードとは

メニューモードとは、一度設定してしまえば、その後変更する機会の少ない“機能”や“動作”などの変更を行なうことができます。メニューモードの詳細は各機種種のオペレーションマニュアルを参照してください。

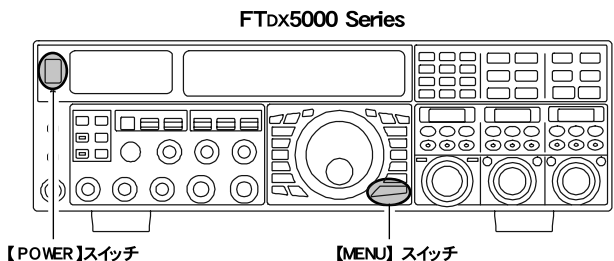
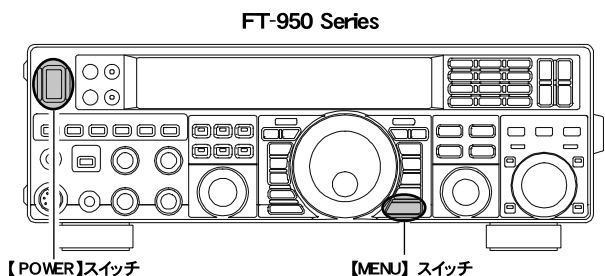
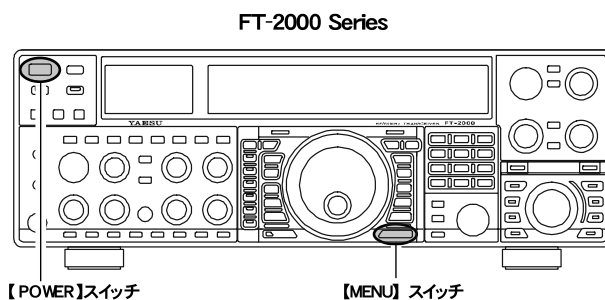
アドバイス

リスト画面の左上にグループ名を表示しますので、まず関連のあるグループをMAINダイヤル（FTDX5000の場合はVFO-A【SELECT】つまみ）を回して選択してから、それぞれの項目を探すようにすると便利です（次ページの画面は、AGCグループを選ぶ場合の例です）

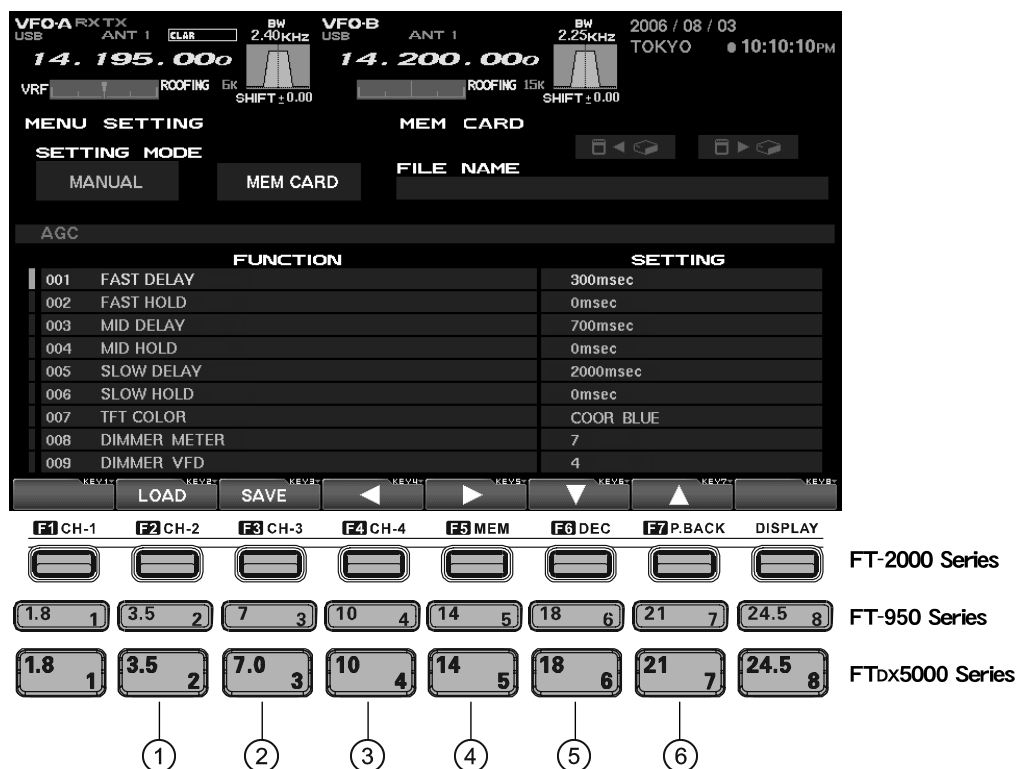
メニューモードリセット機能

1. 前面パネルの【POWER】スイッチを押して、一度電源を“OFF”にします。
2. 【MENU】スイッチを押しながら【POWER】スイッチを押して、電源を“ON”にします。

メニューモードの設定が工場出荷時にリセットされます。



メニューが表示されている画面のファンクションキーの説明



① [F2(Load)]

メニューモードの設定値をCFカードからロードする画面へ移動します。

② [F3(SAVE)]

メニューモードの設定値をCFカードにセーブする画面へ移動します。

③ [F4(◀)]

メニューモードの設定値を選択します。設定値は【SUB/VFO-B】つまみを回して変えることもできます。

④ [F5(▶)]

メニューモードの設定値を選択します。設定値は【SUB/VFO-B】つまみを回して変えることもできます。

⑤ [F6(▼)]

メニューモードリストのダウンキーとして動作します。項目はメインダイヤルを回して選択することもできます。

⑥ [F7(▲)]

メモリーリストのアップキーとして動作します。項目はメインダイヤルを回して選択することもできます。

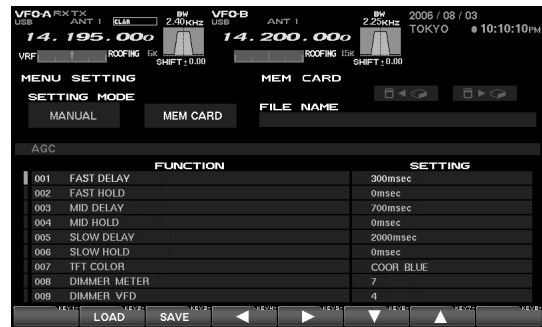
変更が終了しましたらかならず【MENU】(メニュー)キーを約2秒間押しして変更を確定します。この際に変更をしたくない場合は、【MENU】(メニュー)キーを短く押せば、元の状態に戻ります。

メニューモードの使い方

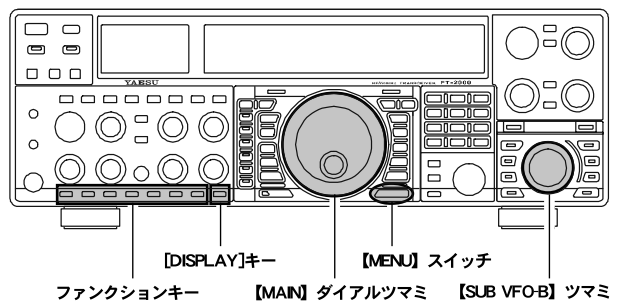
メニューモードの設定変更

メニューモードの設定を変更するには下記のように行います。

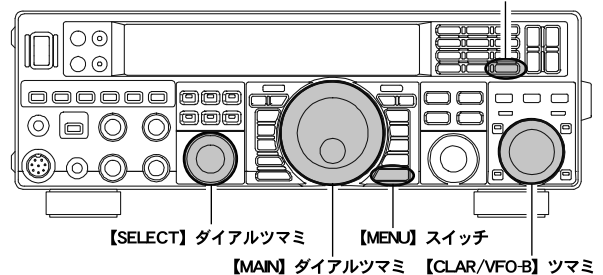
1. **[DISPLAY]**キー (FT-950/FTDX5000は **[ENT]**キー) を2秒以上押し、モニターに表示されているファンクションタブに白い文字が表示され、ファンクションキーが有効になります。もう一度**[DISPLAY]**キー (FT-950/FTDX5000は **[ENT]**キー) を2秒以上押しと**ファンクション**キーは無効になり (ファンクションタブから白い文字は消えます), ファンクションキーは他の選択キーとして動作します。
2. **[MENU]** (メニュー) キーを短く押します。モニターにメニューモード設定画面が表示されます。表示内容は、メニューグループ / メニュー番号 / メニュー名 / 設定項目が表示されます。
3. **[MAIN]** ダイアルツマミ (FT-950は **[MAIN]** ダイアルツマミまたは **[SELECT]** ツマミ / FTDX5000は **VFO-A [SELECT]** ツマミ) をまわして変更したい項目へ移動します。**[F6(▼)]**キー, **[F7(▲)]**キーで選択することもできます。
4. **[SUB VFO-B]** ツマミ (FT-950は **[CLAR/VFO-B]** ツマミ / FTDX5000は **VFO-B [SELECT]** ツマミ) で設定を変更します。**[F4(◀)]**キー, **[F5(▶)]**キーで選択することもできます。
5. **[MENU]** (メニュー) スイッチを約2秒間押しと内容を保存し、メニュー設定画面を終了後、メニューモードへ入る前の画面に戻ります。
[MENU] (メニュー) スイッチを短く押しと変更内容は保存されずに以前の内容のままメニューモードを終了することができます。



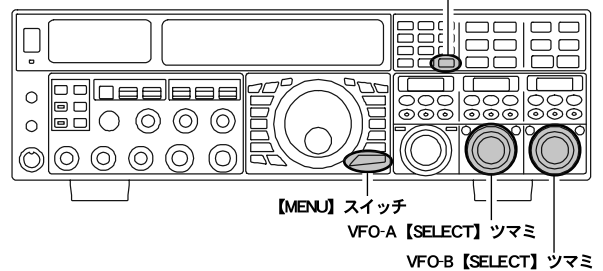
FT-2000 Series



FT-950 Series



FTDX5000 Series



メニューモードのセーブ (SAVE)

メニューモードのデータを無線機の内部メモリーから CF カードへ移します。

1. **[F3(SAVE)]**を押し、セーブ画面を開きます。
以前セーブしたファイルがある場合は、FILE NAMEが表示されます。
セーブしたファイルが複数ある場合は、**[F6 (▼)]/[F7(▲)]**でファイルを選択することができます。



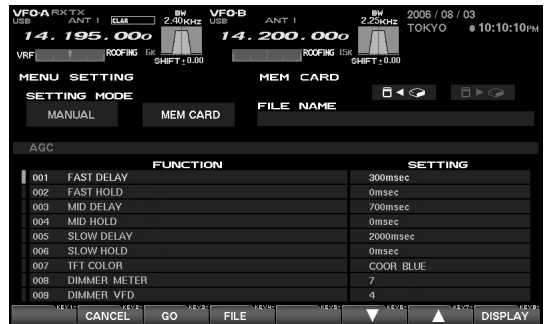
2. 以前セーブしたファイルに上書きしたい場合は、次の手順 3. へ進んでください。
上書きをしないで新しいファイルにデータをセーブする場合は、**[F4(FILE)]**を押し、FILE NAMEをハイライトにし、ファイル名をキーボードで入力し、**[F4(FILE)]**を押し、確定します。
3. **[F3(GO)]**を押し、CF カードにセーブします。
キャンセルする場合は**[F2(CANCEL)]**を押すと、セーブせずメニューモードの画面に戻ります。

アドバイス MEM CARD表示の右側に「CF CARD IS NOT READY」のエラーメッセージが表示された場合は、CF カードが正しく挿入されているか確認してください。

すでに CF カードに入っているファイル名でセーブをすると、CF カードに入っている同じ名前のファイルは更新され以前のデータは消去されますのでご注意ください。



↑
[F3(SAVE)]を押す



↑
[F3(GO)]を押す

メニューモードの使い方

メニューモードのロード (LOAD)

メニューモードのデータを付属のCFカードから無線機の内部メモリへ移します。

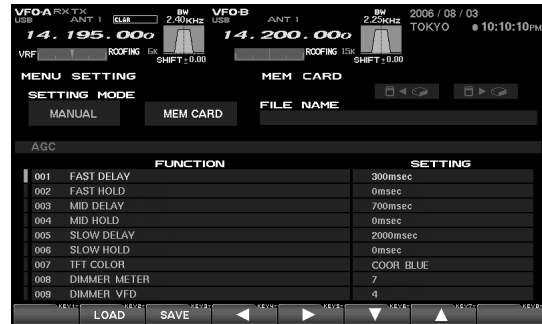
1. **[F2(LOAD)]**を押し、ロード画面を開きます。
FILE NAME が複数ある場合は**[F6(▼)]**, **[F7(▲)]**で選択します。



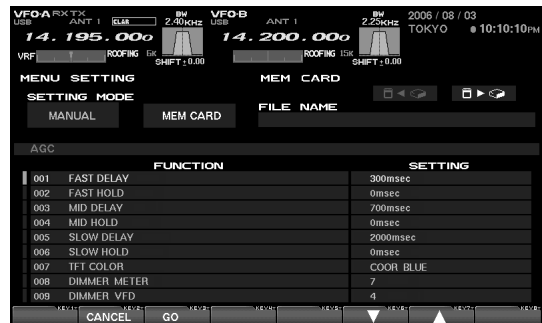
2. **[F3(GO)]**を押してロードします。
キャンセルする場合は**[F2(CANCEL)]**を押します。

アドバイス MEM CARD表示の右側に「CF CARD IS NOT READY」のエラーメッセージが表示された場合は、CFカードが正しく挿入されているか確認してください。

メモリーデータをCFカードからロードすると、無線機の内部メモリーは新しい内容に更新され、いままでのデータは消去されますのでご注意ください。



↑
[F2(LOAD)]を押す



↑
[F3(GO)]を押す

CF カードのLOAD/SAVE 時に表示されるメッセージ一覧表

CF カードのLOAD/SAVE 時に表示されるメッセージの一覧表です。

メッセージ表示	内容説明
PLEASE CHECK A DISK (ディスクをチェックしてください)	CF カードが装着されているか確認してください。
DIRECTORY IS NOT FOUND (ディレクトリーが見つかりません)	該当するファイルがないようです。もう一度確認してください。
DISK FULL (ディスクがいっぱいです)	CF カードの空き容量がありません。空き容量のある CF カードを用意してください。
A FILE WENT WRONG (ファイルが不正です)	ファイルサイズなどが不正です。確認してください。
FILE NAME IS INACCURATE (ファイル名が不正です)	ファイル名が入力されていません。確認してください。
OVERWRITED. IS IT RIGHT? (オーバーライトよろしいですか?)	ファイル選択による上書き確認。
PLEASE PUSH "FILE" KEY ("FILE" キーを押してください)	ファイル名の決定を促したときに表示されます。
NOW WRITING A EEPROM. PLAESE WAIT. (現在EEPROM 書き込み中ですのでお待ちください)	EEPROMに書き込み中です。
SAME FILE NAME EXIST (同じファイル名は存在しています)	同一ファイル名で Saveしようとしています。確認してください。
FILE NAME INDETERMINATION (ファイル名不定です)	ファイル名が確定されていません。確認してください。

YAESU

The radio

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0120-456-220

受付時間 平日 9:00～12:00、13:00～18:00

©2016 八重洲無線株式会社
無断転載・複写を禁ず

1608X-BS

八重洲無線株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル

